

平成29年度のモニタリング結果（全体）

【目次】

1. モニタリング調査の枠組み	P2
2. 平成29年度モニタリング計画	P4
3. 太郎右衛門地区全体の調査	P10
4. 自然再生事業の実施計画に関わる調査	P44
5. その他の報告	P102

【ご注意】

本資料は、生態系保護の観点から生物の位置に関わる情報などは非表示としています。

1. モニタリング調査の枠組み

- 生態系モニタリング専門委員会では、2つの枠組みでモニタリング調査を考えて行くことが合意されました。
- **太郎右衛門地区全体の調査** → 地区全体の環境を良好な状態で管理していくために必要な情報の収集
- **自然再生事業の実施計画に関わる調査(整備の効果を見る調査)** → 目標種の生態に応じた情報の収集

●太郎右衛門地区全体の調査

(1段階)網羅的な調査

- 地区全体でどこにどのような生物が生息・生育するかという情報は定期的に更新が必要なため、これを実施します。



(2段階)①貴重な種および良好な環境に対する調査

- 保全管理が必要となる貴重な種や良好な環境の実態を把握します。

例: 特定の場所等

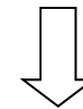
(2段階)②外来種などの問題生物に対する調査

- 抑制管理が必要となる外来種などの問題生物の実態を把握します。

例: アライグマ等

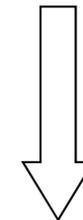
●自然再生事業の実施計画に関わる調査

(1段階)目標種の出現の有無を確認する調査



(2段階)目標種の生息・生育実態を確認する調査

- 繁殖や採餌など、整備地の利用実態を把握します。



(3段階)目標種の定着状況を確認する調査

- 整備地での定着状況を把握します。

例: ハンノキ・ミドリシジミ、アカガエル類等

参考：目標種

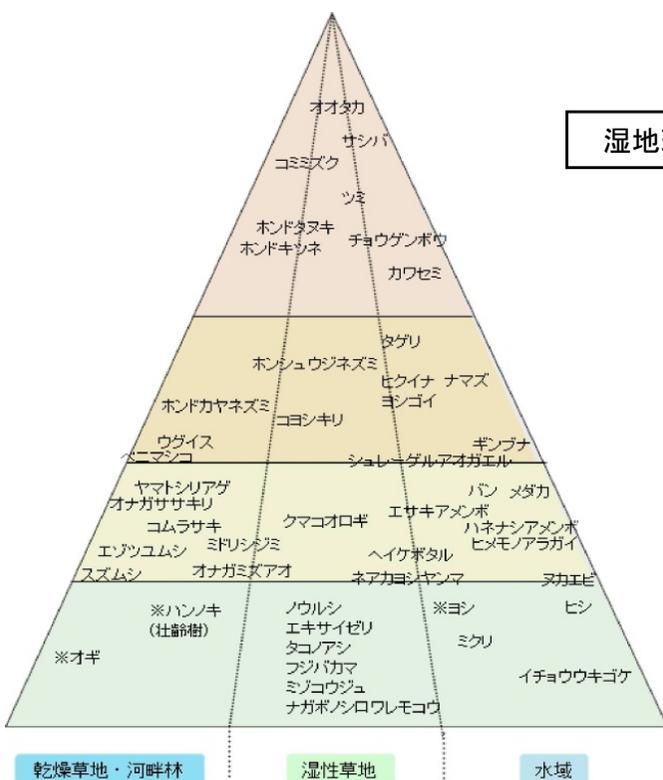
●再生によって期待する生態系(全体構想書より)

- ・太郎右衛門自然再生地では、現状よりも豊かな湿地環境があったとされている。特に現在乾燥化著しい上池でも、かつては湧水によって開放水面が形成されていたとされる。
- ・過去に確認された近年確認記録のないタマシギ、クイナ、サクラソウなどが普通に見られる様な湿地環境の再生が望まれる。

(注) 平成28年7月26日の第43回協議会で、①総合的な目標としてコウノトリを入れたい、②サクラソウは「サクラソウ群落」としたい、との意見があり、平成29年3月7日の第45回協議会でこれらに関する変更が承認されました。改訂に向けて関係機関と調整中です。(下記の生態系ピラミッド自体の変更はありません。)

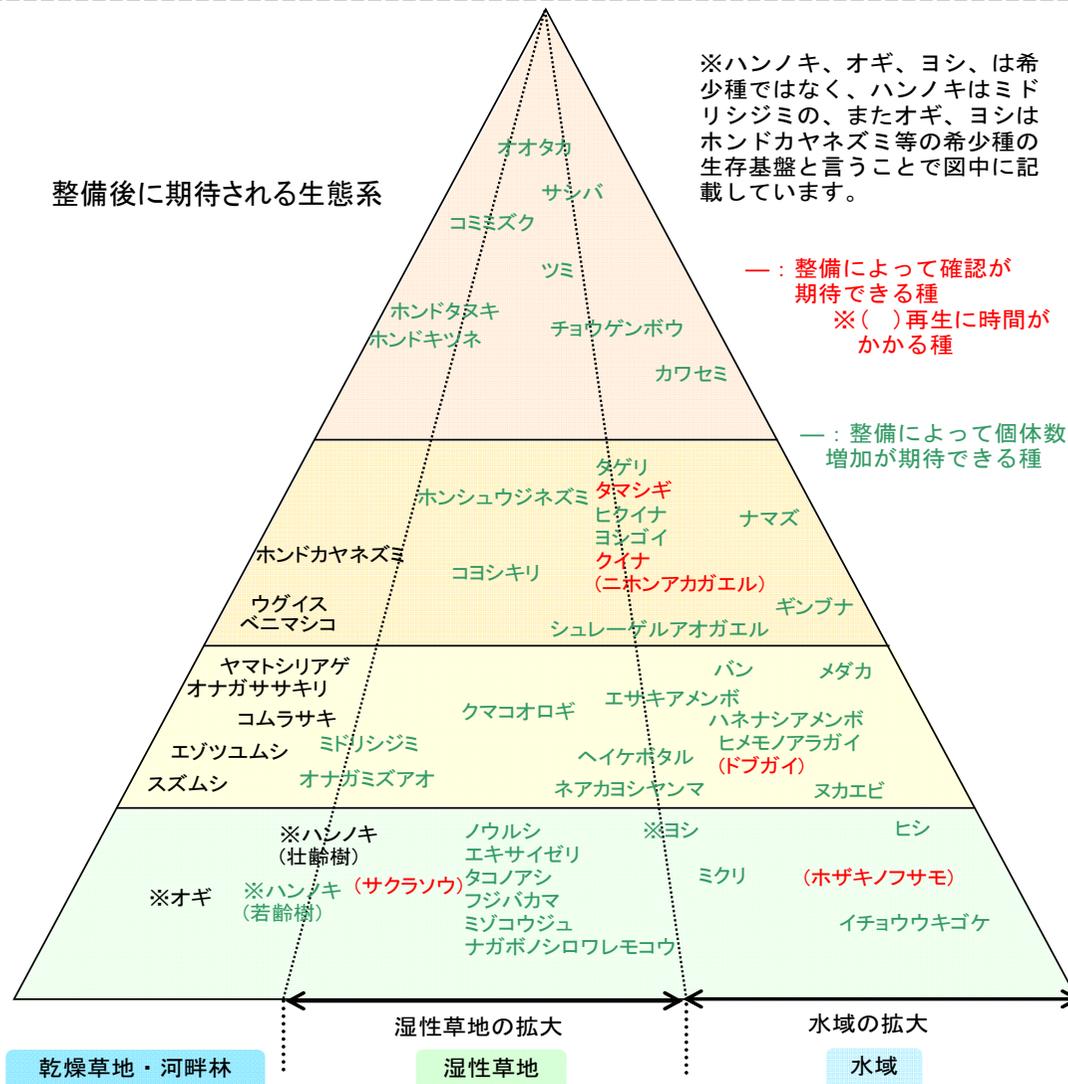
記載種: 確認された希少種の内、代表種のみ

現状の生態系



湿地環境の整備

整備後に期待される生態系



※ハンノキ、オギ、ヨシ、は希少種ではなく、ハンノキはミドリシジミの、またオギ、ヨシはホンダカヤネズミ等の希少種の生存基盤と言うことで図中に記載しています。

—: 整備によって確認が期待できる種
※() 再生に時間がかかる種

—: 整備によって個体数増加が期待できる種

2. 平成29年度モニタリング計画

: 報告部分

モニタリングスケジュール

区分	場所	テーマ	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	備考	
太郎右衛門 地区全体の調査	旧流路・全域	水位・地下水位													連続観測	
	旧流路	水質	●		●		●		●		●		●		・6回調査	
	全域	網羅的な調査	植物相		●			●								・5月：春季の植物確認適期 ・8月：夏季以降の植物の確認適期 ・「特定の場所」を対象として実施
			魚類					●								・8月：魚類全般の確認適期
			底生動物					●								・8月：貝類等の底生動物の確認適期
	管理に向けた調査	特定の場所・写真	アライグマ	●				●		●						・春・夏・秋に各1回
			アライグマ					●								・夏に1回（試行的に実施）
自然再生 事業の実施計画に 関わる調査	上池・旧流路 保全地区	植物		●			●								・5月：春季の植物確認適期 ・8月：夏季以降の植物の確認適期	
	上池・旧流路 整備地 上池・ モトクロス場 跡地整備地	写真	●				●		●						・春・夏・秋に各1回	
		植物	植物相		●			●								・5月：エキサイゼリの確認適期 ・8月：全般的な水生・湿生植物の確認適期
			植生図							●						・夏～秋季：群落成立期
		鳥類			●										・6月：繁殖期	
		両生類												●	・3月：ニホンアカガエルの産卵期	
	ハンノキ育成 試験地	写真	●				●		●						・春・夏・秋に各1回	
下池・ハンノキ 移植地	ミドリシジミ			●										・6月：ミドリシジミの確認適期 ・6/25に観察イベント		

参考：地区全体の生物調査（網羅的な調査）の年次スケジュール

項目		H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29					
植生		●	—	—	●	—	—	●	—	—	—	●	—	—	●	—						
植物		●	●	●	●	●	●	●	—	—	●	—	—	●	—	—	●					
鳥類		●	●	●	●	●	●	●	—	—	—	●	—	—	●	—	—					
両生類・爬虫類・ほ乳類		●	●	●	●	●	●	●	—	—	—	— (水国)	—	—	試行	●	—					
昆虫類		●	●	●	●	●	●	●	—	—	—	●	—	—	●	—	—					
魚類		—	—	●	●	—	—	—	—	—	●	—	—	●	—	—	●					
底生動物		—	—	●	●	—	—	—	—	—	●	—	—	●	—	—	●					
備考	調査関係					中池・下池のみで実施		植物以外は 中池・下池 のみで実施			植物は水域 のみで実施		H24.9に「 地区全体の 生物調査（ 網羅的な調 査）を3年に 1回の頻度 で実施」を 決定		「良好な環 境に対する 調査」として 特定の場所 調査を別途 開始		魚類・底生 はアセスで 実施		植生は水国 で実施		「問題生物 に対する調 査」としてア ライグマ調 査を別途実 施	
	その他		H16.3全体 構想発表			H18.5全体 構想改訂版 発表				H23.1実施 計画書発表								H28.4モニタ リングとりま とめ資料発 表				

2. 平成29年度モニタリング計画

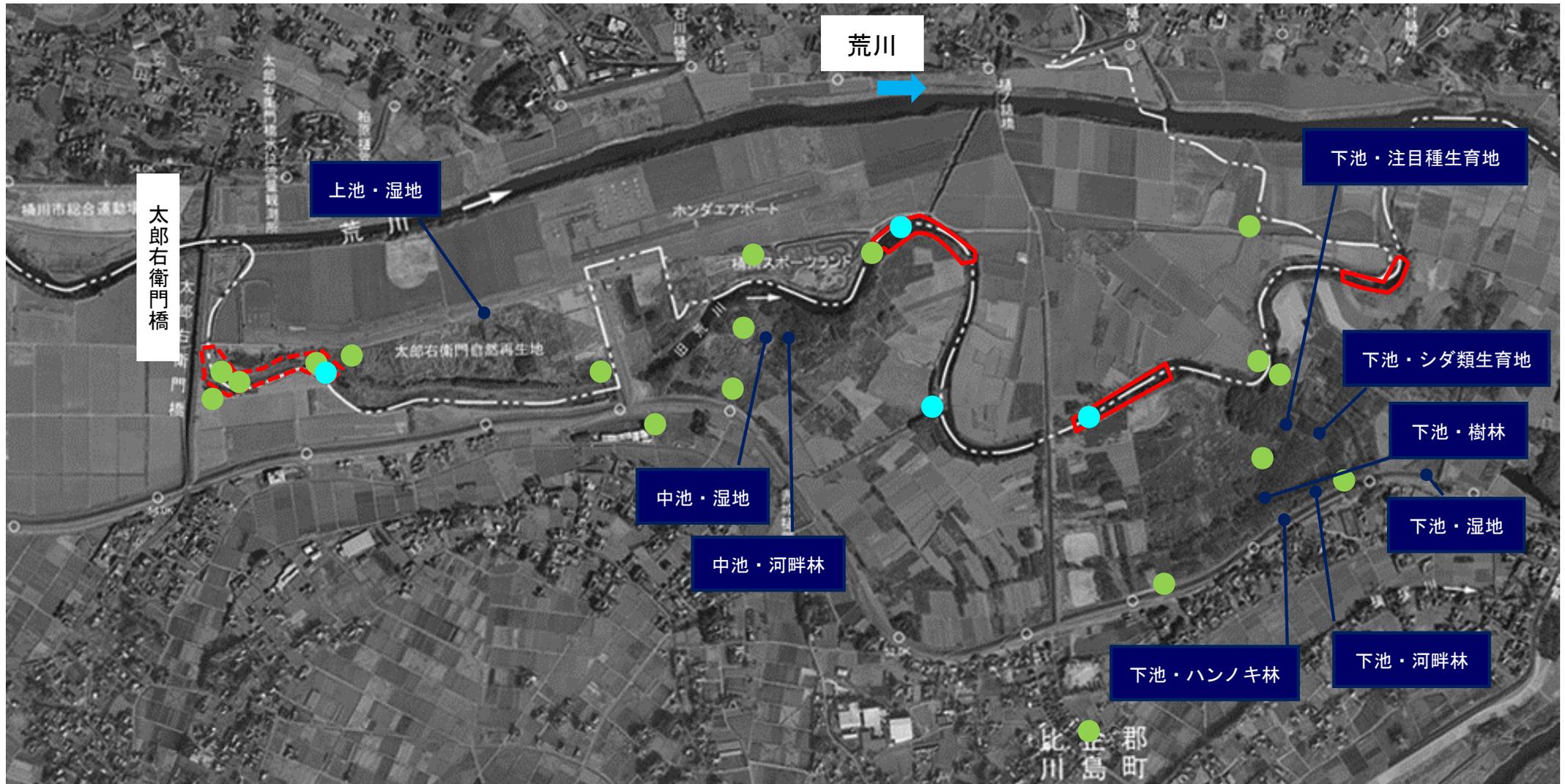
2) モニタリング調査の調査日

調査対象		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
植物	植物相		15-17日 22-23日			7月31-8月4日							
	植生図						25-27日						
鳥類				12-14日									
両生類 アカガエル類													2日
哺乳類 自動撮影(アライグマ)						8月24-25日設置~9月7-8日回収							
魚類						23-25日							
底生動物						23-25日							
ミドリシジミ				22日									

2. 平成29年度モニタリング計画

3) モニタリング調査の地点

<太郎右衛門地区全体の調査地点>



植物相・特定の場所の調査地点

魚類・底生動物調査地点

● : 水位 : 地下水位観測地点

底生動物調査地点

● : 水質調査地点

2. 平成29年度モニタリング計画

3) モニタリング調査の地点

<自然再生事業の実施計画に関わる調査地点>



2. 平成29年度モニタリング計画

4) モニタリング調査の方法

1. 植物調査	方法
植物相	調査範囲内を踏査し、出現した種を記録する。
植生図	調査範囲内を踏査し、出現した群落を記録し植生図を作成する。



2. 鳥類調査	方法
鳥類相	調査範囲を見通せる定点において、出現する種を記録する。



3. 両生類・哺乳類調査	方法
自動撮影	調査範囲内に自動撮影カメラを設置する。
アカガエル類	調査範囲内を踏査し、卵塊の有無を確認・記録する。



4. 魚類調査	方法
魚類相	調査範囲内において、タモ網・投網・定置網・セルビン等を使用し、生息する種を採捕する。



5. 底生動物調査	方法
底生動物相	調査範囲内において、タモ網等を使用し、生息する種を採捕する。



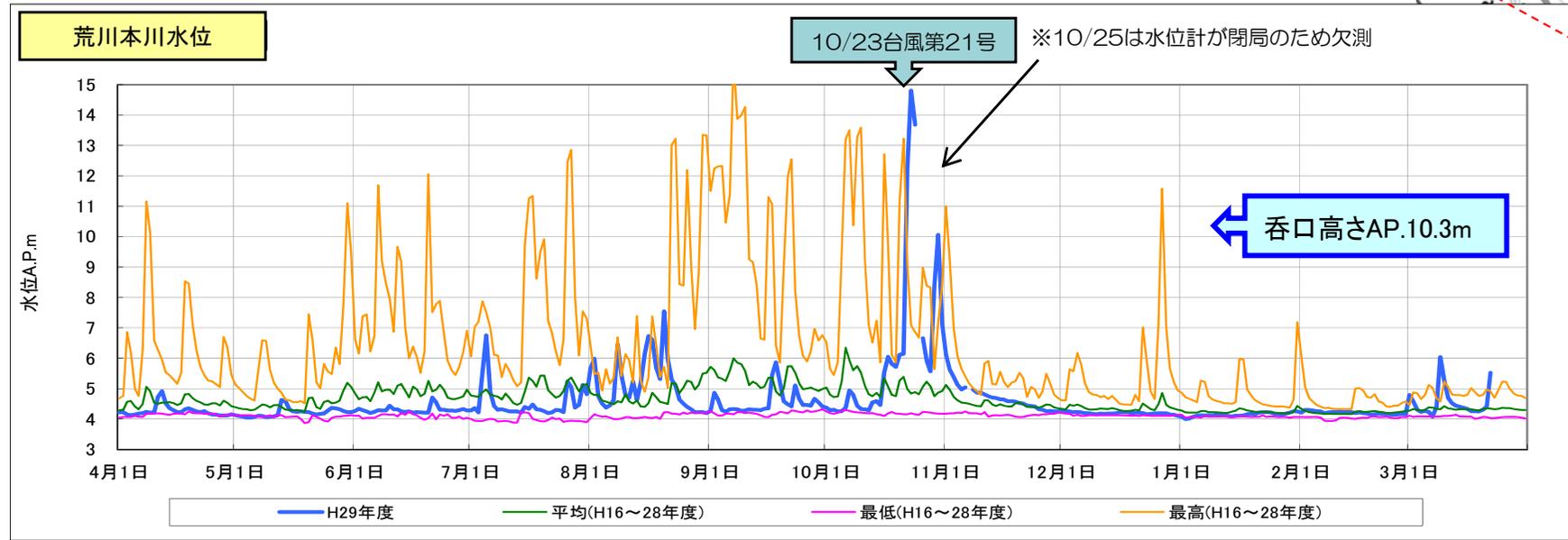
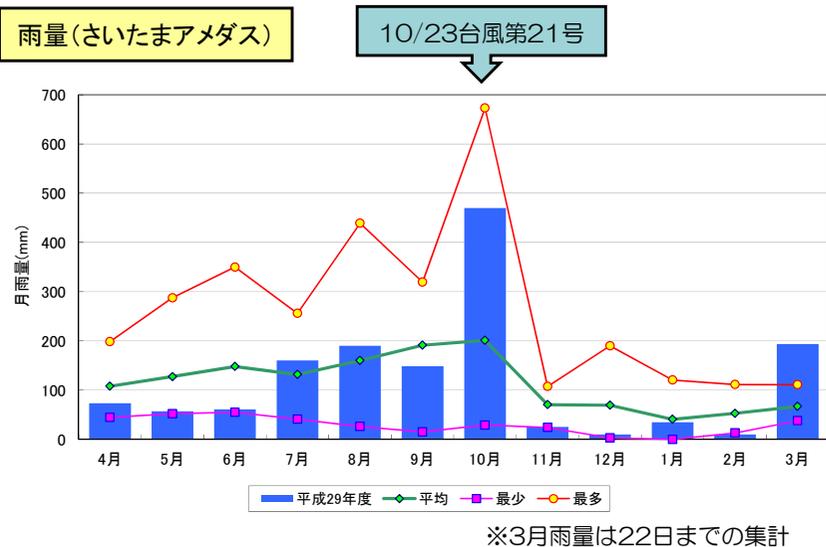
6. ミドリシジミ調査	方法
ミドリシジミ	移植したハンノキを対象に、ミドリシジミの飛来状況を目視で確認する。



3. 太郎右衛門地区全体の調査

1) 水位・地下水位 ①荒川本川水位と降雨量

- 降雨量は、12月、2月は少雨、1月は平年並み、3月は多雨でした。
- 荒川本川水位は、12～2月は平均値から最低値付近を示しました。3月は降雨により最大値を超えました。



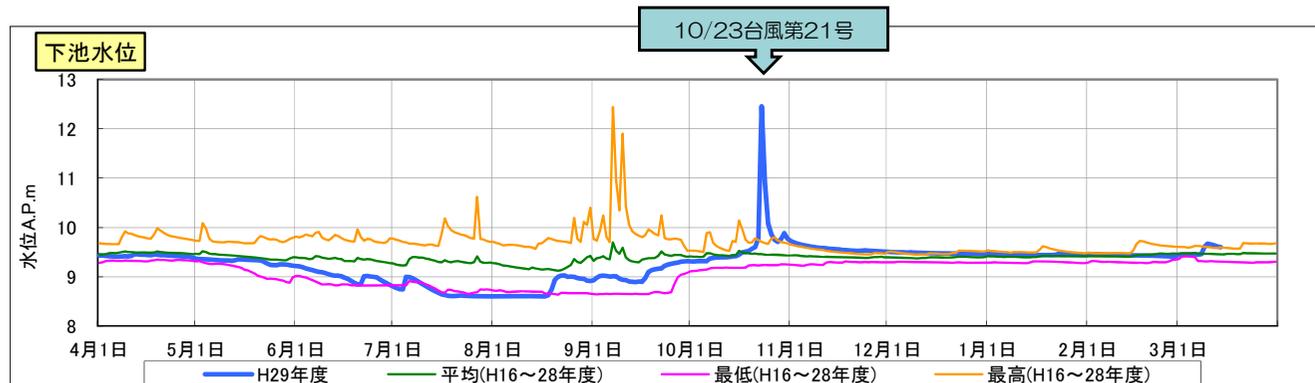
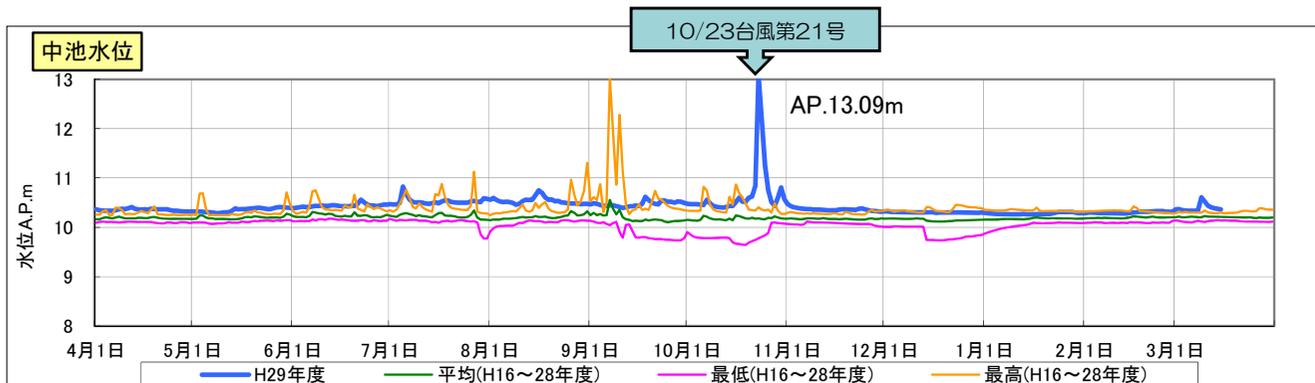
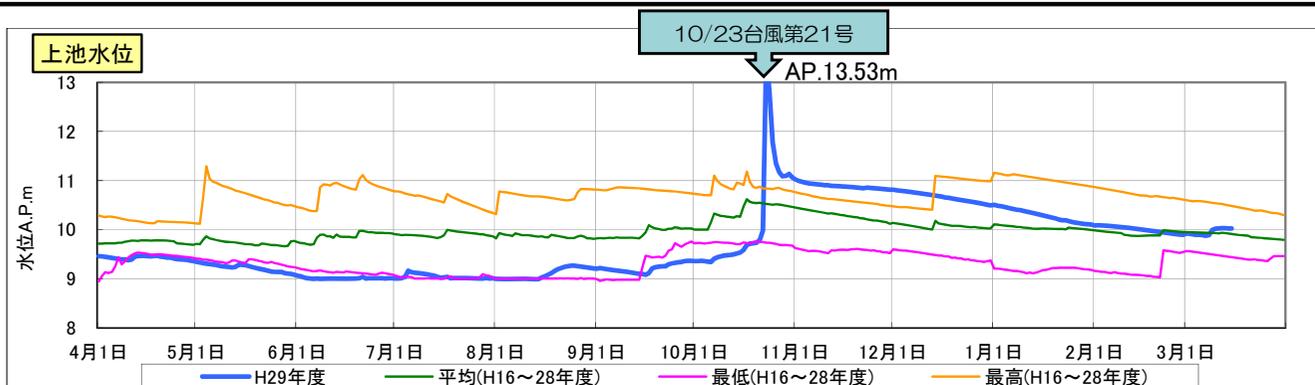
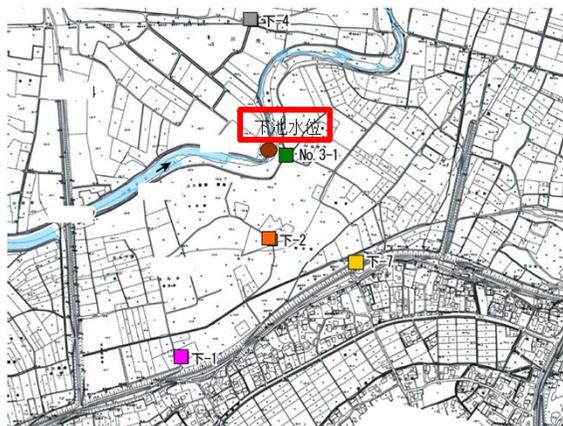
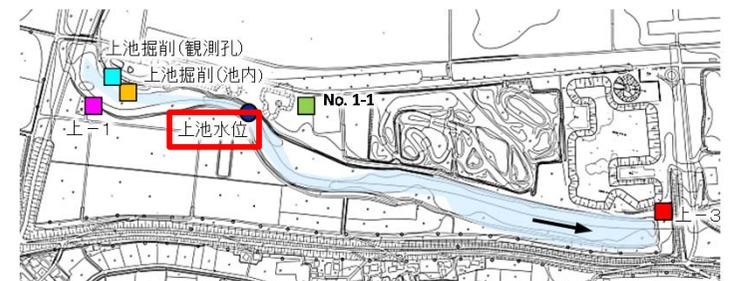
【平均・最高・最低について】

- H16-28年度のデータを用いています。
- 1日ごとに、各年の同日のデータから算出しています。
- 各日のデータは、荒川本川は「時間最高水位」、他は「日平均水位」を用いています。

3. 太郎右衛門地区全体の調査

1) 水位・地下水位 ②旧流路水位 上池、中池、下池

- 上池の水位は、10月下旬～12月中旬は最高値を超えていました。12月中旬以降、水位は低下し、平均値付近を推移しています。
- 中池、下池は、水位変動は小さく、10月下旬以降、最高値付近を推移しています。



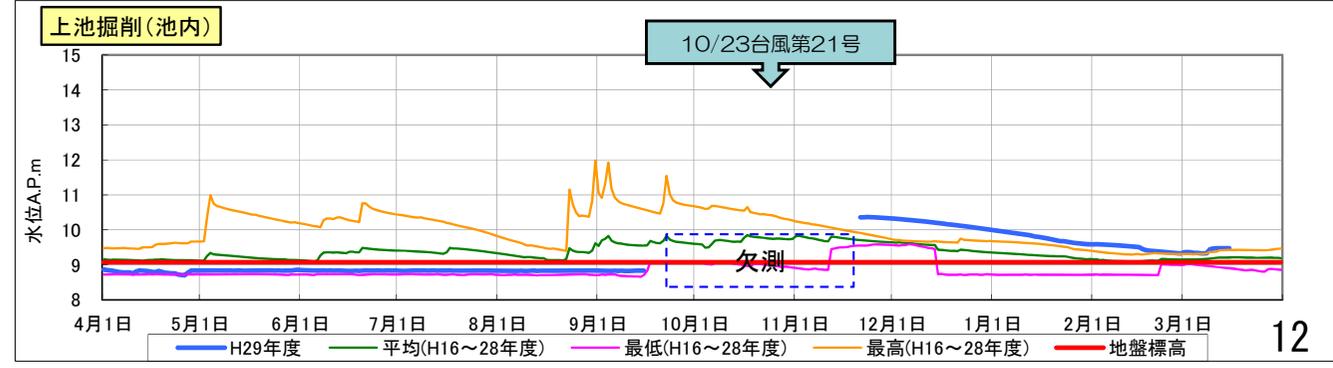
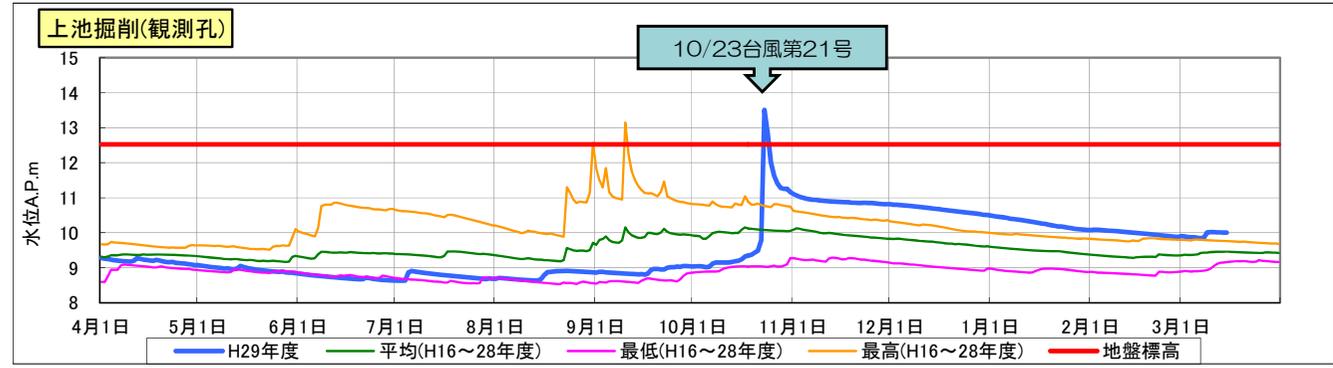
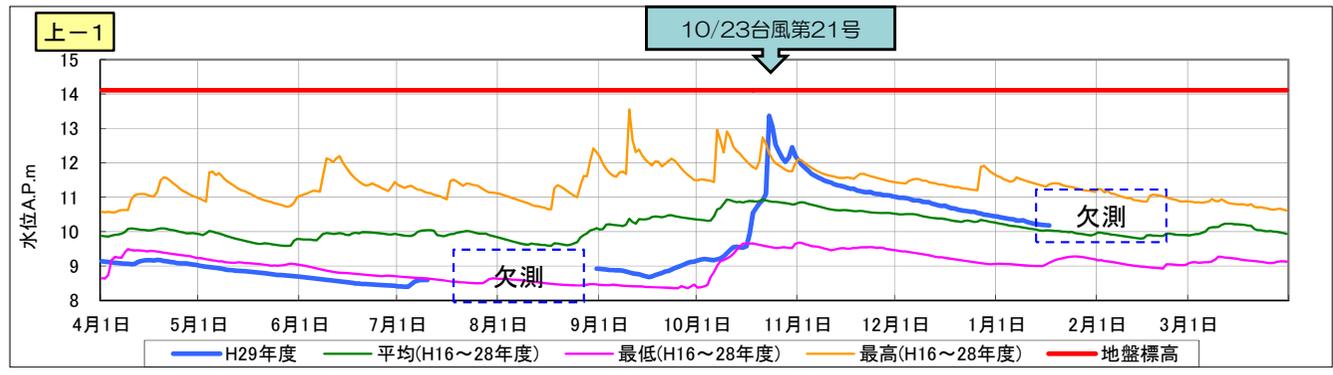
3. 太郎右衛門地区全体の調査

1) 水位・地下水位 ③地下水位 上池 上-1、上池掘削（観測孔）、上池掘削（池内）

- 上-1は、12月は最高値と平均値の間を推移し、1月以降は平均値をやや上回る値で推移しました。
- 上池掘削（観測孔）は、10月の台風の影響による過去最高の値を引き続き示し、12月以降は最高値以上の値を維持しながら推移しました。
- 上池掘削（池内）は、12月以降は最高値以上の値を維持しながら推移しました。



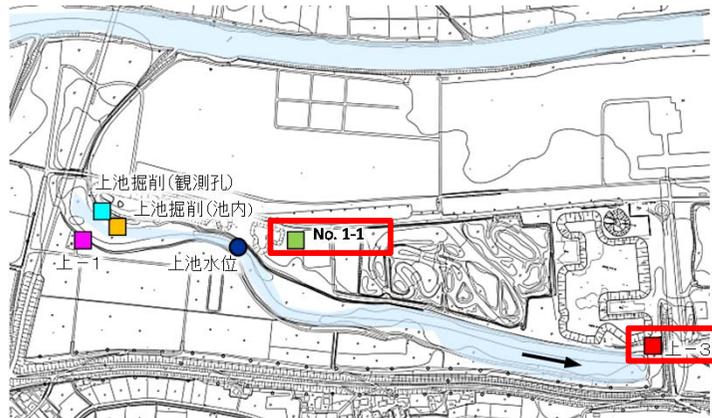
* 一部欠測期間があります。



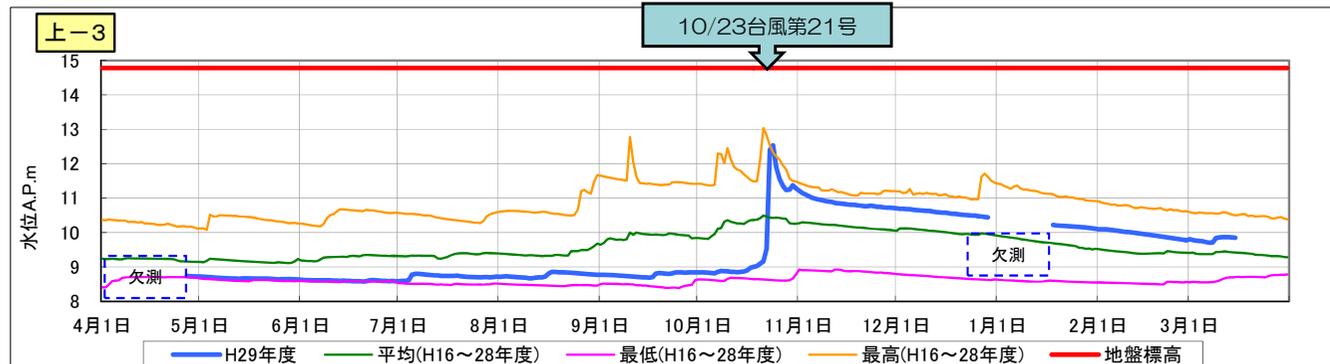
3. 太郎右衛門地区全体の調査

1) 水位・地下水位 ③地下水位 上池 No.1-1、上-3

- No.1-1は、12月、1月は最高値付近、2月は平均値付近を推移しました。3月は降雨で最高値付近まで上昇しています。
- 上-3は、12月以降は最高値付近と平均値の間で徐々に低下しながら推移しました。



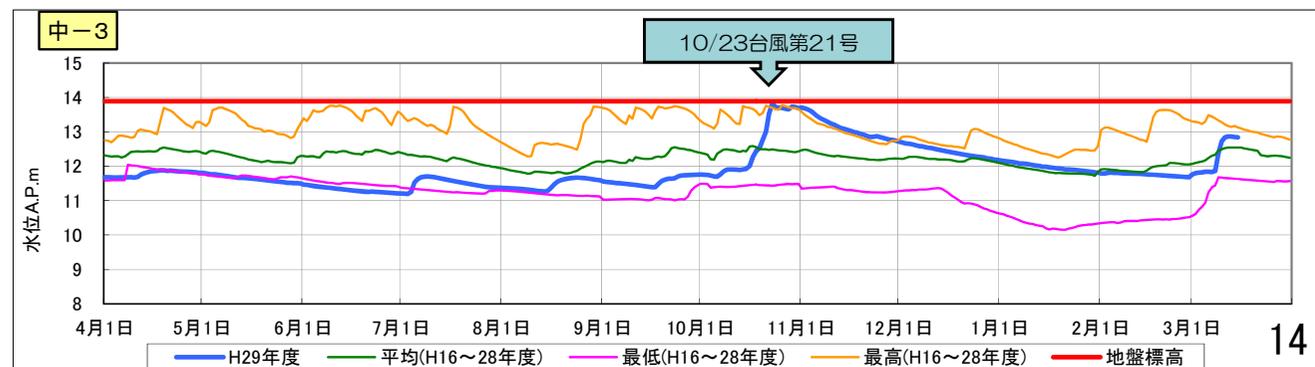
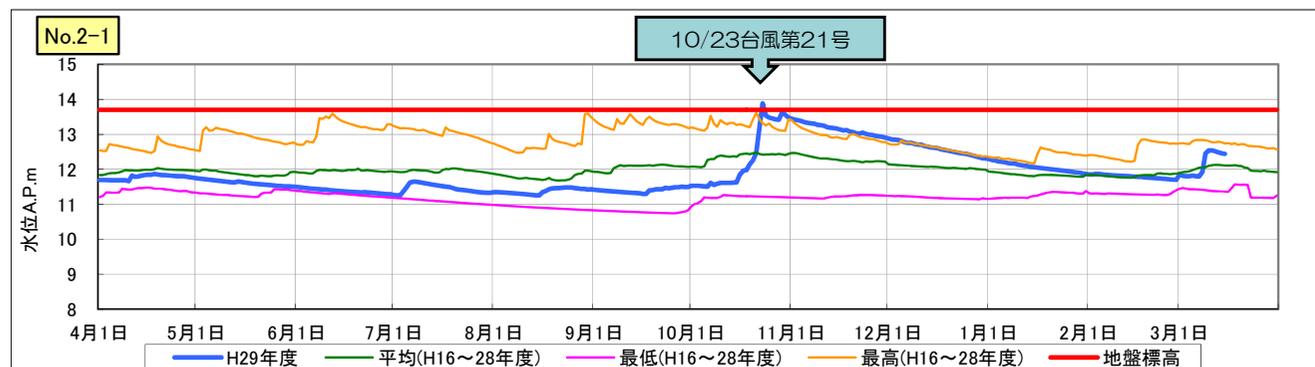
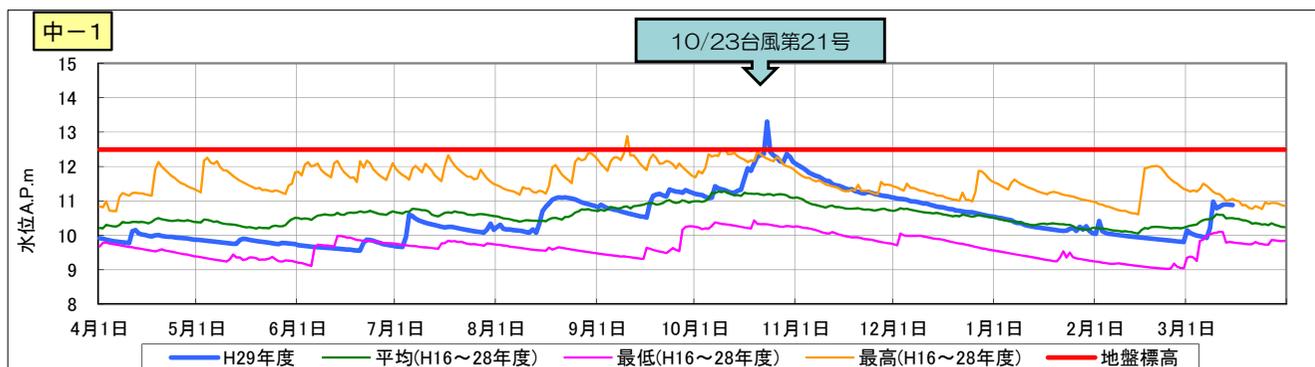
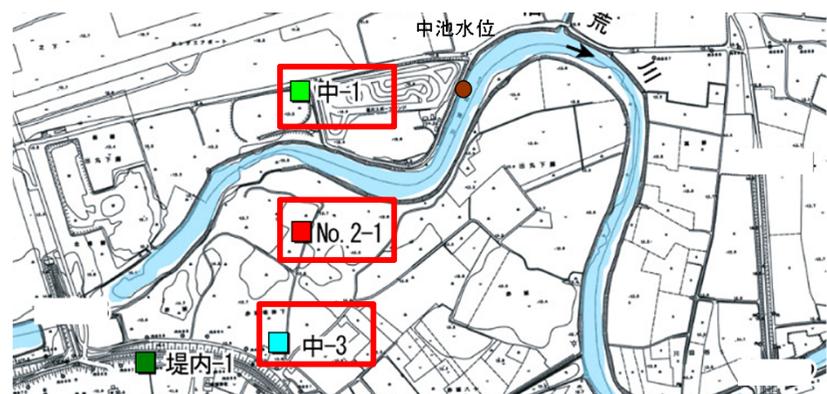
* 一部データの欠測期間があります。



3. 太郎右衛門地区全体の調査

1) 水位・地下水位 ③地下水位 中池 中-3、No.2-1、中-1

- 中-3は、12月以降は最高値付近から平均値付近を推移しました。3月は降雨で最高値付近まで上昇しています。
- No.2-1は、12月は最高値付近を推移し、1月以降は最高値付近から平均値付近を推移しました。
- 中-1は、12月は最高値と平均値の間を推移して、1月、2月は平均値付近を推移しました。3月は降雨で最高値付近まで上昇しています。

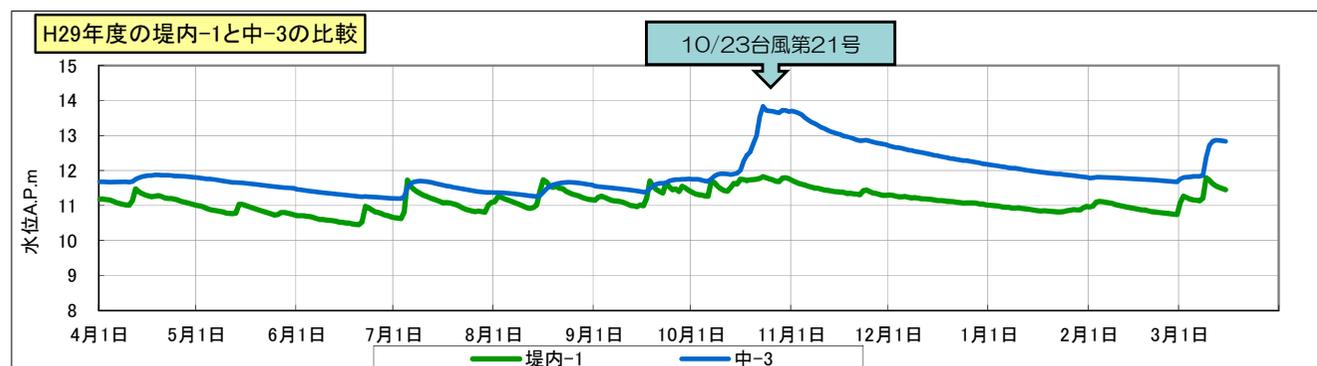
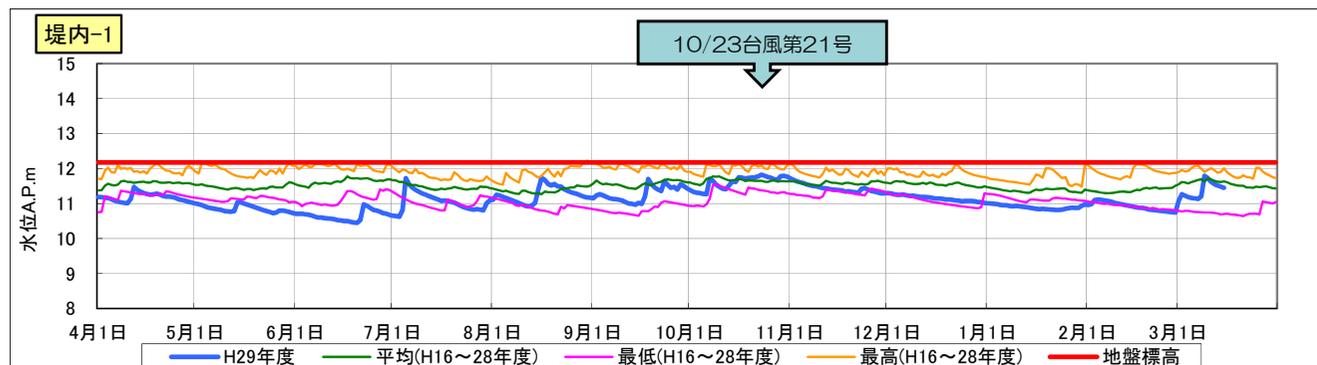


3. 太郎右衛門地区全体の調査

今回報告

1) 水位・地下水位 ③地下水位 中池 堤内-1

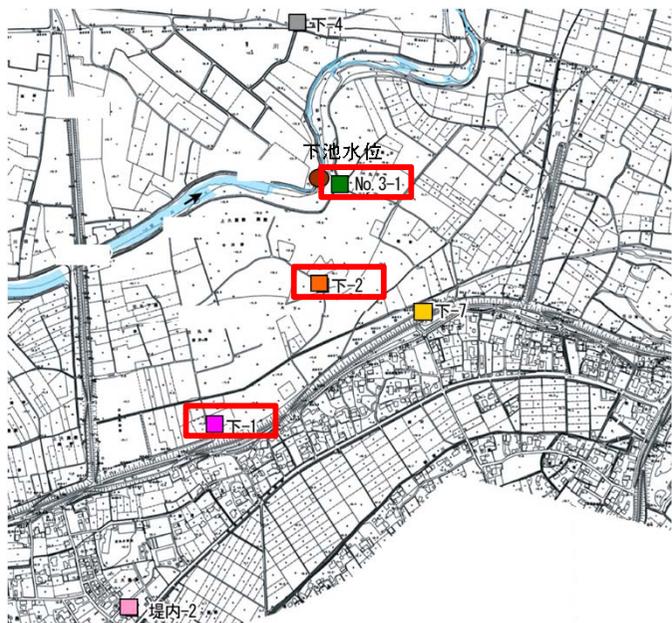
- 堤内-1は、12月は最低値をやや上回る値を推移し、1月、2月は最低値以下を推移しています。3月は降雨で平均値付近を推移しています。
- 堤内-1は高水敷が冠水するような規模の出水に伴う地下水位の上昇が堤外(中-3)に比べて小さく、逆に細かな変動が多い状況です。
- 堤内-1、中-3を比較すると、地盤標高と地下水位の差が小さいために、小規模な降雨等による影響を受けやすい可能性が考えられます。



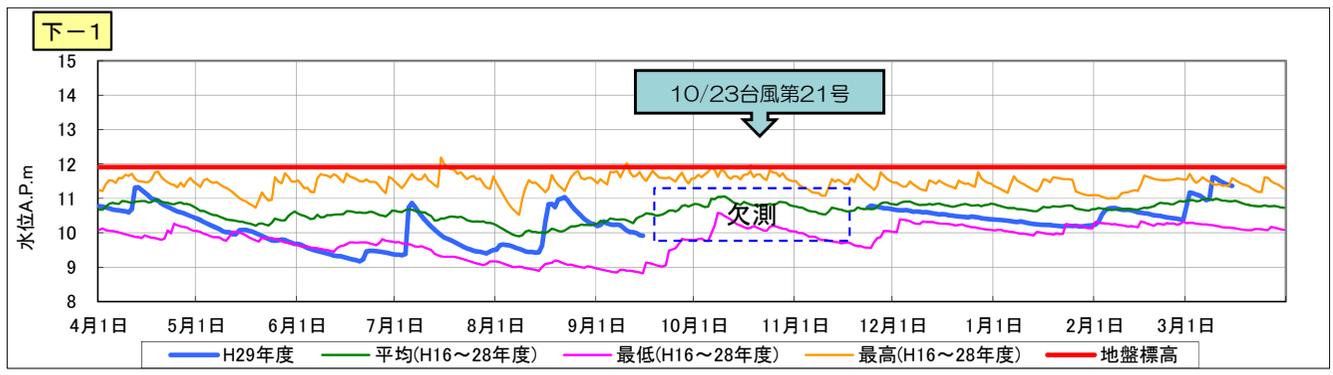
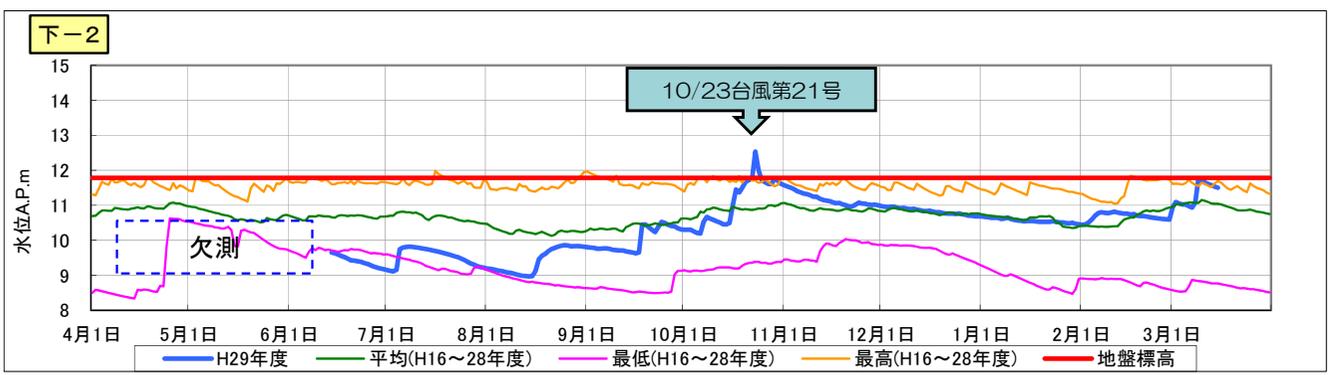
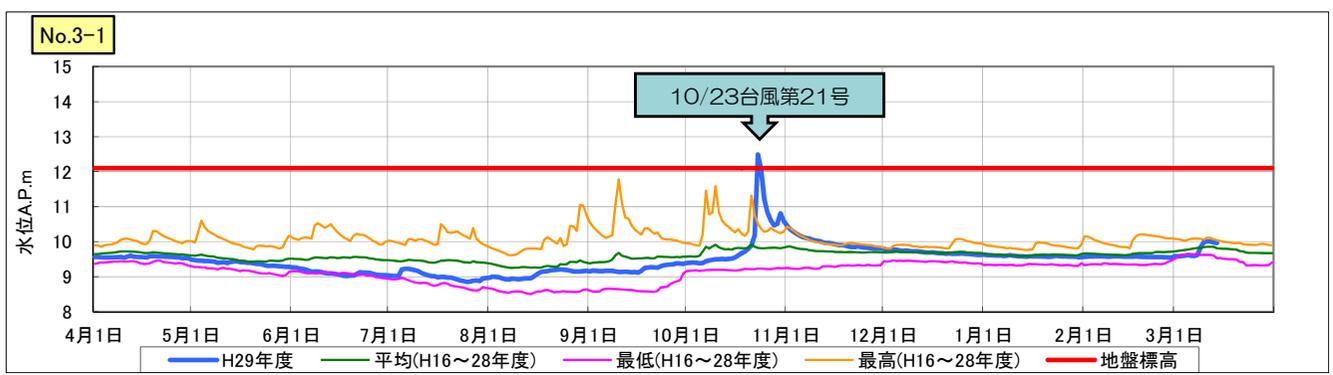
3. 太郎右衛門地区全体の調査

1) 水位・地下水位 ③地下水位 下池 下-1、下-2、No.3-1

- 下-1は、12月以降は平均値付近から最低値付近を推移しています。3月は降雨で最高値付近まで上昇しています。
- 下-2、No.3-1は、12月以降は平均値付近を推移しています。3月は降雨で最高値付近まで上昇しています。



* 一部、データの欠測期間があります。

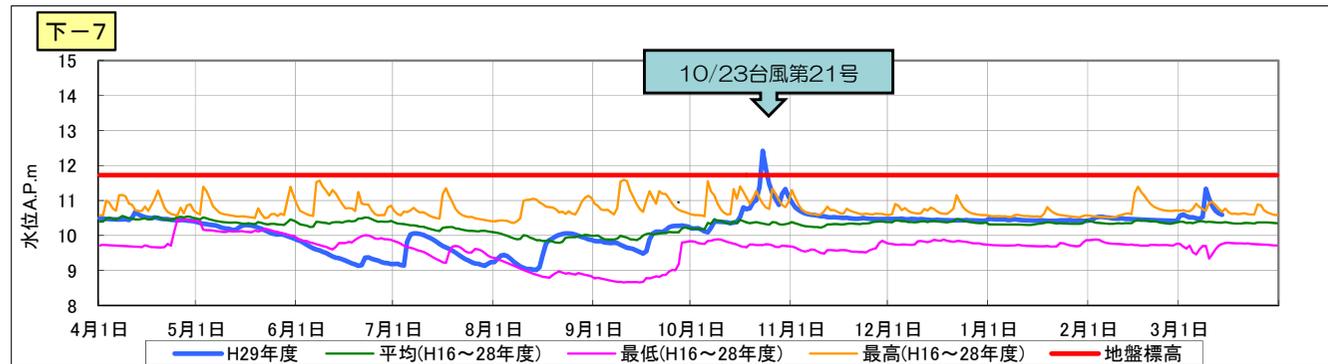
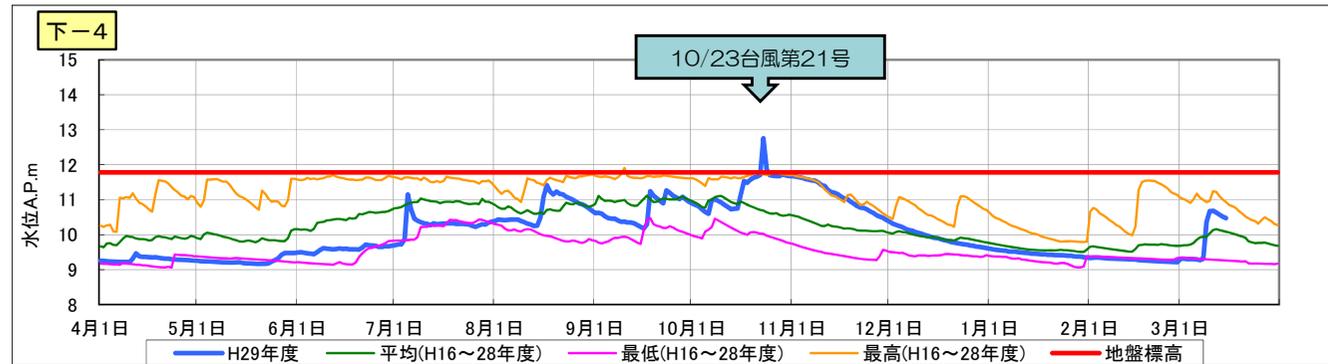
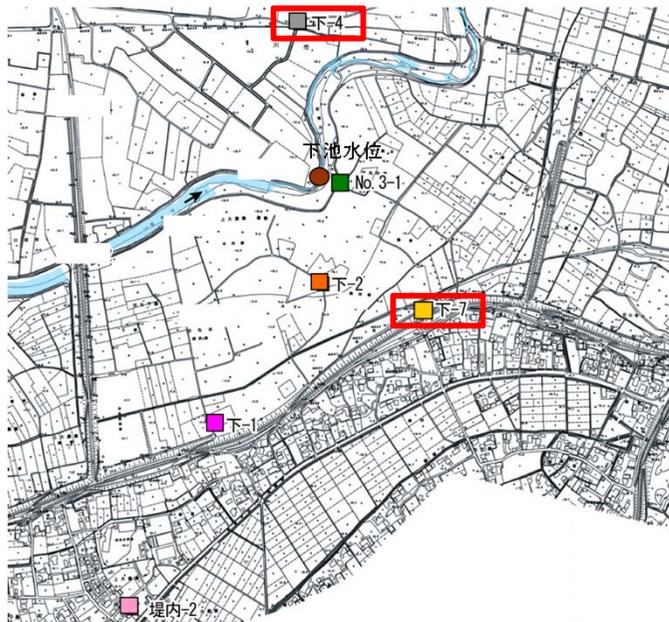


3. 太郎右衛門地区全体の調査

今回報告

1) 水位・地下水位 ③地下水位 下池 下-4、下-7

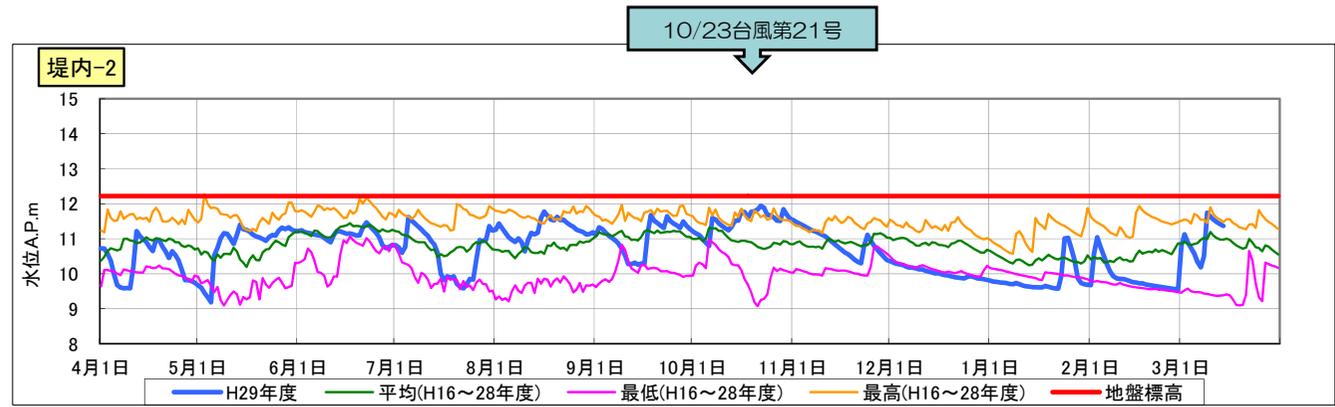
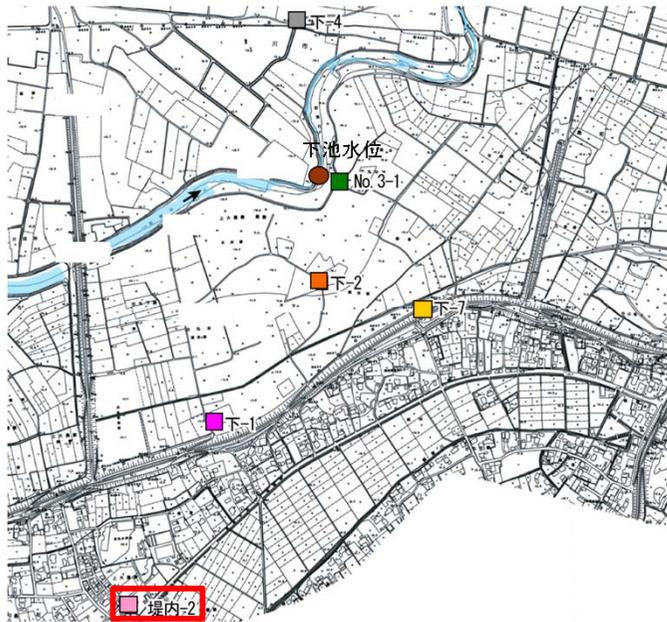
- 下-4は、12月、1月は平均値付近を2月は最低値付近を推移しています。3月は降雨で最高値付近まで上昇しています。
- 下-7は、12月以降は平均値付近をおおむね一定の値を維持しながら推移しています。3月は降雨で最高値付近まで上昇しています。



3. 太郎右衛門地区全体の調査

1) 水位・地下水位 ③地下水位 下池 堤内-2

- 堤内-2は、12月、2月は最低値付近を推移し、1月は最低値以下を低下しながら推移しています。3月は降雨で最高値付近まで上昇しています。
- 堤内-2は高水敷が冠水するような規模の出水に伴う地下水位の上昇が堤外(下-2)に比べて小さく、逆に細かな変動が多い状況です。
- 堤内-2、下-1、下-2を比較すると、地盤標高と地下水位の差が小さいほど、小規模な降雨等による影響を受けやすい可能性が考えられます。



3. 太郎右衛門地区全体の調査

今回報告

2) 水質

- COD・DO・pHとも、12月、2月の値は概ね過年度と同様の濃度でした。
- CODの12月、2月は、下池は10mg/Lを超えましたが、上池、中池は10mg/L以下を示しました。
- DOの12月、2月は、各池とも5mg/L以上を示しました。上池、中池(上)、下池は10mg/L以上を示しました。
- pHの12月、2月は、各池とも概ね7.0から8.0を示しました。2月の中池(上)は8.0以上を示しました。

調査実施状況と報告状況

水質

偶数月
(H29.10まで報告済み)

※過年度の計測結果は荒川上流河川事務所HPで公開しています。
http://www.ktr.mlit.go.jp/ktr_content/content/000651250.pdf

調査地点

中池(上)

上池

中池(下)

下池

上池

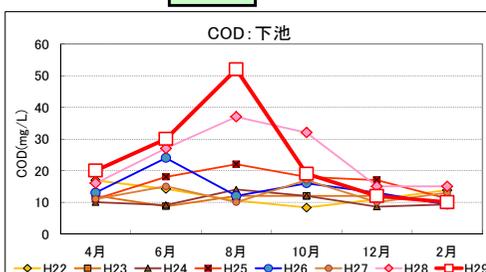
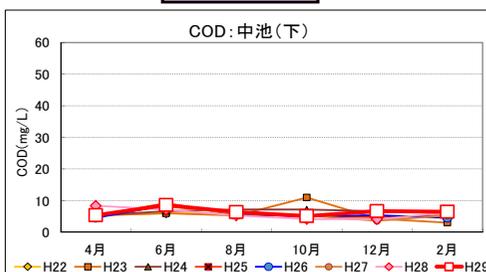
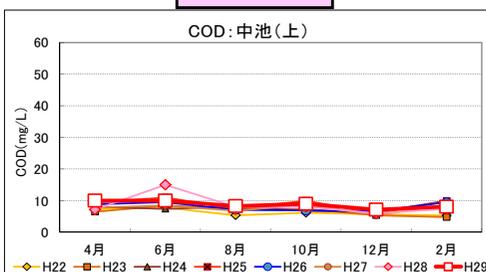
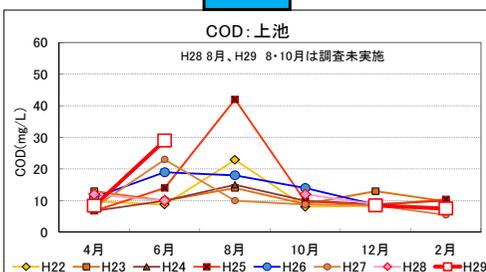
中池(上)

中池(下)

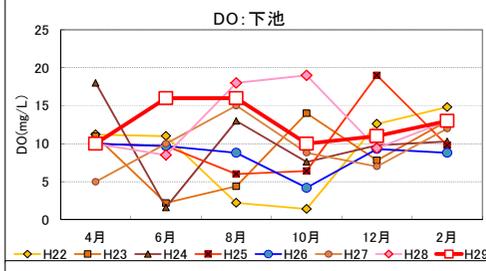
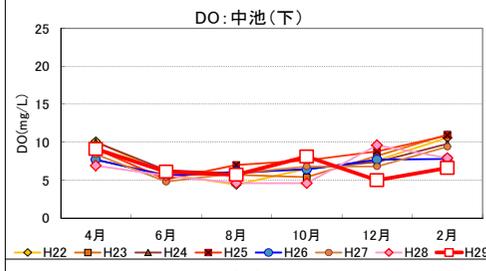
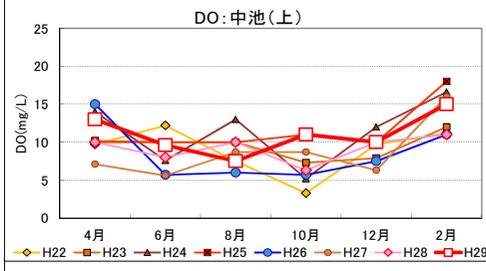
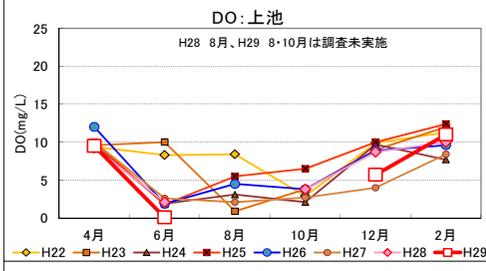
下池

- ①採水はおよそ午前9時～午後1時の時間帯で実施しています。
- ②分析方法は、CODは過マンガン酸カリウム酸性法、DOはウインクラーアジ化ナトリウム変法、pHはガラス電極法です。

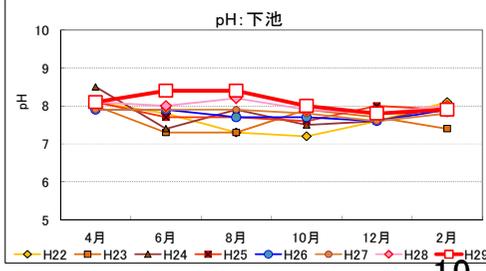
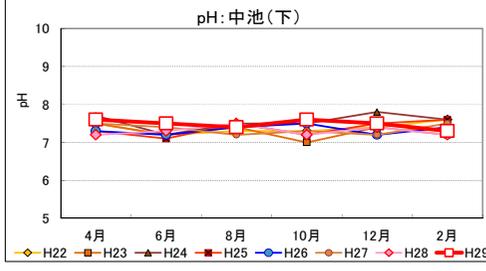
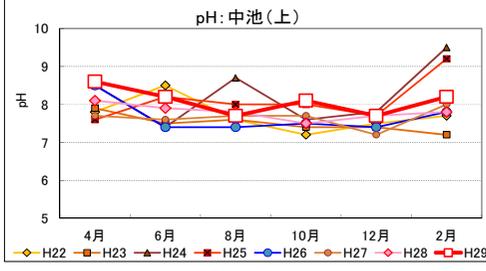
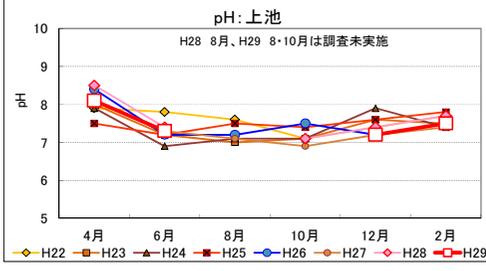
CODの経時変化



DOの経時変化



pHの経時変化



※上池のH28 8月、H29 8・10月は水が無く調査はありません。

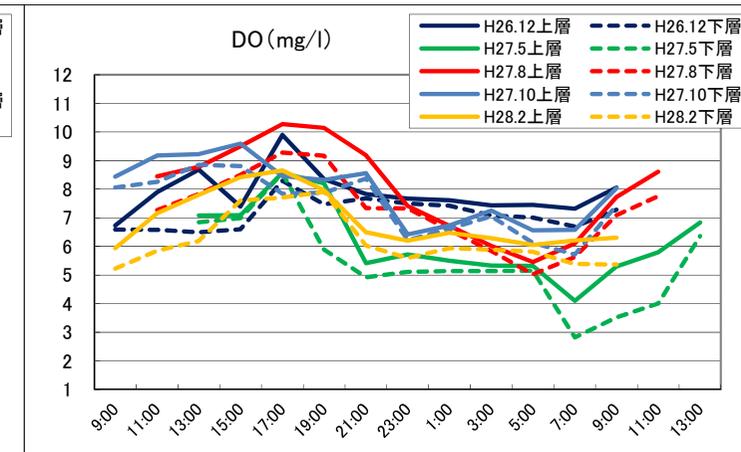
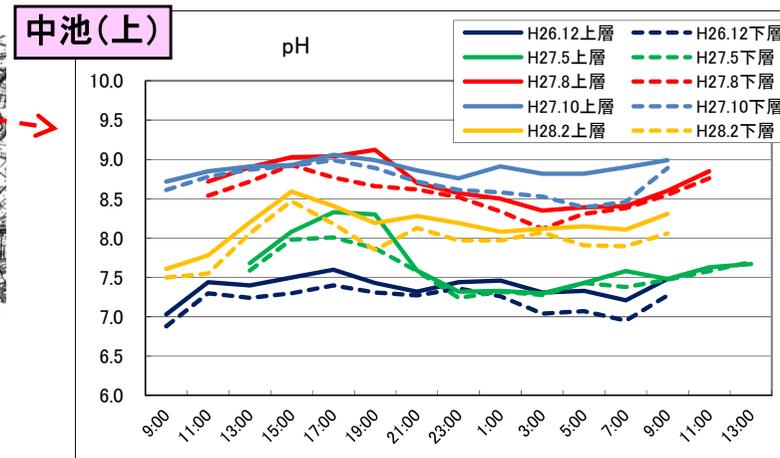
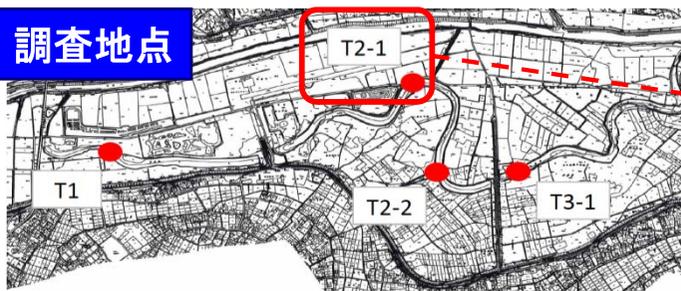
3. 太郎右衛門地区全体の調査

参考

2) 水質

●参考 DO・pHの日内変動調査(H26-27実施)

- 計5回、実施しました。
 - 各回、25時間、2時間毎に計13回の機器測定を実施しました。
 - DOの季節変動が大きく水深が深い「中池(上):T2-1」で表層(水面から10cm)と底層(河床から10cm)を計測しました。
- ⇒ DOの表層は、日中は定期調査と同等の7-9mg/Lでしたが、夕方に10mg/L付近まで上昇し、朝方に低下しました。底層は表層より常に低い値でした。
- ⇒ pH、DOともに同じ傾向の変動を示し、大きな日内変動があることが確認されました。

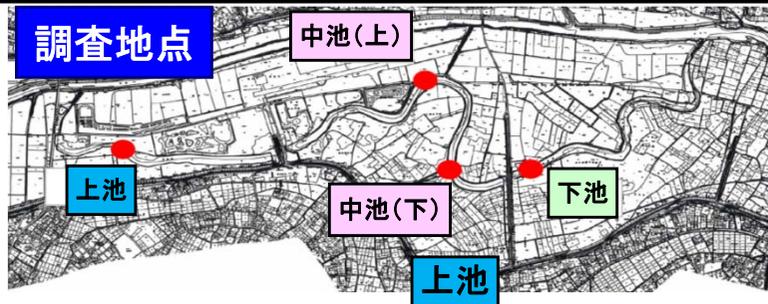


3. 太郎右衛門地区全体の調査

2) 水質

- T-N、T-Pとも、12月、2月の値は概ね過年度と同様の濃度でした。
- 各池とも12月、2月は、T-Nで1mg/L付近かそれ以上、T-Pで0.1mg/L付近かそれ以上で富栄養の状態にあり、概ね上池<中池<下池の順に濃度が高くなっています。
- 中池では、赤城樋管流入口付近の下流側地点の方の値が継続して高いため、流入水が負荷源になっている可能性が考えられます。

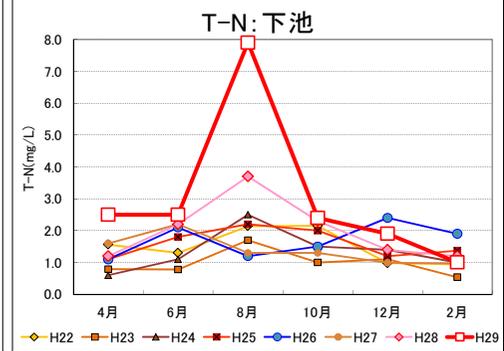
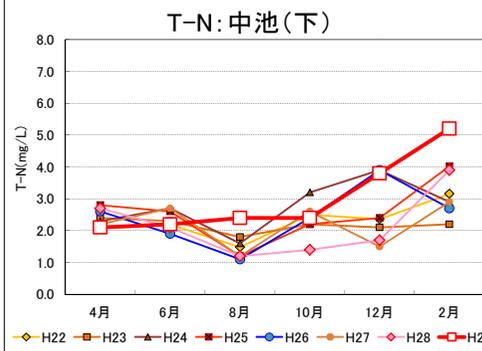
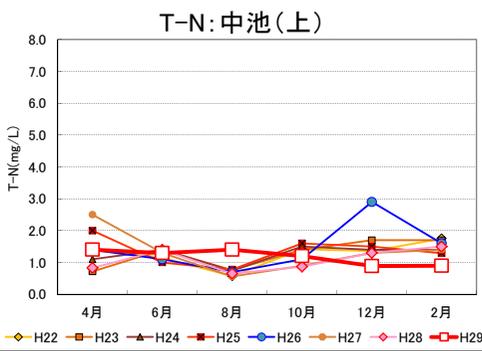
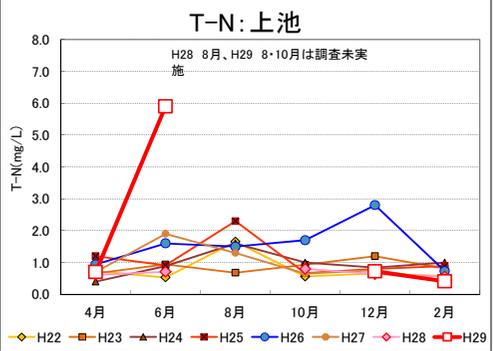
調査地点



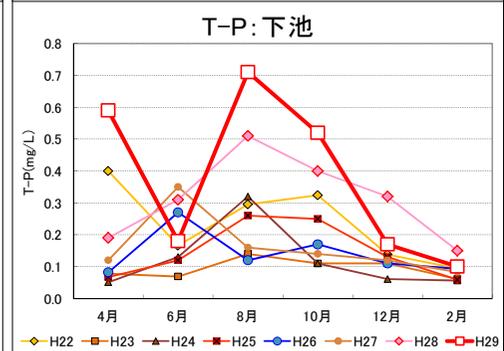
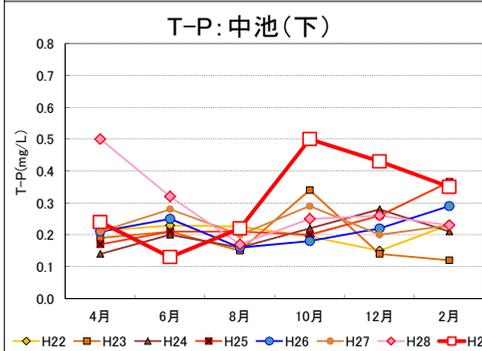
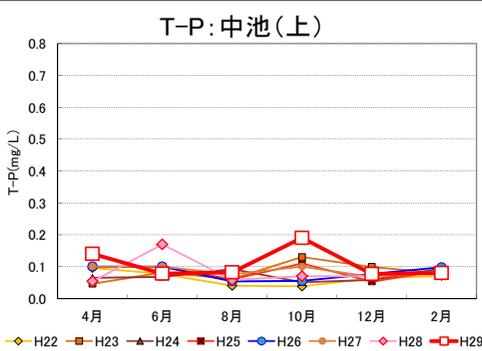
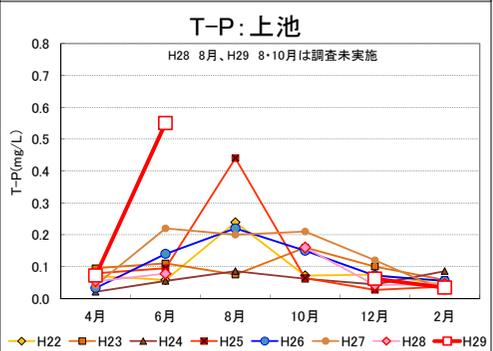
- ①採水はおよそ午前9時～午後1時の時間帯で実施しています。
- ②分析方法は、T-Nはペルオキシニ硫酸カリウム分解-紫外線吸光光度法、T-Pはペルオキシニ硫酸カリウム分解-吸光光度法です。

※過年度の計測結果は荒川上流河川事務所HPで公開しています。
http://www.ktr.mlit.go.jp/ktr_content/content/000651250.pdf

T-Nの経時変化



T-Pの経時変化



※上池のH28 8月、H29 8・10月は水が無く調査はありません。

3. 太郎右衛門地区全体の調査

前回報告

調査実施状況と報告状況	
植物相	春、夏(報告済み)
魚類	夏(報告済み)
底生動物	夏(報告済み)

3) 植物相【春季】

- 植物は47科129種が確認されました。(前回H26は34科73種確認)
- 重要種はイヌスギナ、ハンゲショウ、コイヌガラシ、ノウルシ、エキサイゼリ、ゴマギ、カワラニンジン、ウマスゲ、ヤガミスゲ、マツカサススキの10種が確認されています。前回H26は9種が確認され、確認種数に大きな変化はありませんでした。今回新たにコイヌガラシ、ゾコウジュが確認され、マツカサススキが確認されませんでした。
- ⇒ 全体構想の「目標種」はノウルシ、エキサイゼリの2種が確認されました。前回H26は3種確認され、ミゾコウジュは今回確認されませんでした。
- 特定外来種は、アレチウリが確認されました。
- その他の外来種は、生態系被害防止外来種のアレチヌスビトハギ、オオブタクサ、セイタカアワダチソウ、セイヨウタンポポ、ネズミムギ、マダケ、シュロの7種が確認されました。前回H26の4種から増加しました。

重要種の写真



イヌスギナ



ハンゲショウ



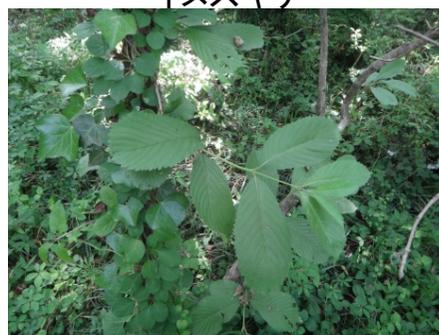
コイヌガラシ



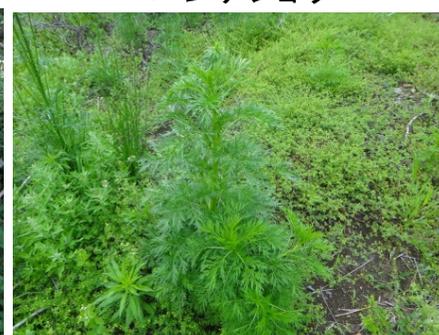
ノウルシ



エキサイゼリ



ゴマギ



カワラニンジン



ウマスゲ



ヤガミスゲ



マツカサススキ

※カワラニンジンとヤガミスゲは埼玉県旧レッドデータブックに記載されている種です。

※「特定の場所」を調査対象地点としているため、確認種リストにはこれまで地区内各所で確認された種が含まれない場合があります。

3) 植物相【夏季】

- 植物は49科124種が確認されました。前回H26(注:夏季ではなく10月実施)は43科107種が確認されました。
- 重要種はイヌスギナ、ハンゲショウ、ゴマギ、カワラニンジン、マツカサススキの5種が確認されています。前回は3種が確認され、確認種数は増加しました。今回新たにイヌスギナ、カワラニンジンが確認されました。
⇒ 全体構想の「目標種」は確認されませんでした。
- 特定外来種は、アレチウリが確認されました。
- その他の外来種は、生態系被害防止外来種のアメリカネナシカズラ、オオブタクサ、アメリカセンダングサ、セイタカアワダチソウ、ヒメジョオン、マダケ、シュロの7種が確認されました。前回H26の4種から増加しました。

重要種の写真イヌスギナハンゲショウマツカサススキゴマギカワラニンジン特定外来種の写真アレチウリ注目種の写真フジカンゾウ

※カワラニンジンとヤガミスゲは埼玉県旧レッドデータブックに記載されている種です。

※「特定の場所」を調査対象地点としているため、確認種リストにはこれまで地区内各所で確認された種が含まれない場合があります。

3. 太郎右衛門地区全体の調査

3) 植物相【春季・夏季】 1/2

植物相

分類群	科名	種名	目標種	重要種	外来種	H26		H29		
						春季	秋季	春季	夏季	
シダ植物	トクサ	スギナ				○	○	○	○	
		イヌスギナ		県NT		○	○	○	○	
	ハナヤスリ	オオハナワラビ				○	○	○	○	
		トラノオシダ				○	○	○	○	
	チャセンシダ オシダ	オニヤブソテツ				○	○	○	○	
		ヤブソテツ				○	○	○	○	
		ヤマヤブソテツ				○	○	○	○	
		ベニシダ				○	○	○	○	
		オクマワラビ				○	○	○	○	
		アイアスカイノデ				○	○	○	○	
		イノデ				○	○	○	○	
	ヒメシダ	ホシダ				○	○	○	○	
		ヒメワラビ				○	○	○	○	
	メシダ	ミドリヒメワラビ				○	○	○	○	
		イヌワラビ				○	○	○	○	
	離弁花類	クルミ	オニグルミ				○	○	○	○
			シダレヤナギ	○			○	○	○	○
		ヤナギ	アカメヤナギ				○	○	○	○
			カワヤナギ				○	○	○	○
			イヌコリヤナギ				○	○	○	○
オノエヤナギ						○	○	○	○	
タチヤナギ						○	○	○	○	
カバノキ		ハンノキ				○	○	○	○	
ブナ		クヌギ				○	○	○	○	
		シラカシ				○	○	○	○	
ニレ		ムクノキ				○	○	○	○	
		エノキ				○	○	○	○	
クワ		ケヤキ				○	○	○	○	
		カナムグラ				○	○	○	○	
タデ		カラハナソウ				○	○	○	○	
		トウグワ				○	○	○	○	
ヤマゴボウ		ミズヒキ				○	○	○	○	
		ヤナギタデ				○	○	○	○	
		オオイヌタデ				○	○	○	○	
		サデクサ				○	○	○	○	
	オオケタデ				○	○	○	○		
	イシミカワ				○	○	○	○		
	ハナタデ				○	○	○	○		
	ママコノシリヌグイ				○	○	○	○		
	アキノウナギツカミ				○	○	○	○		
	ミゾソバ				○	○	○	○		
	スイバ				○	○	○	○		
	ギシギシ				○	○	○	○		
	ヤマゴボウ	ヨウシュヤマゴボウ				○	○	○	○	
ナデシコ	ノミノフスマ				○	○	○	○		
	ウシハコベ				○	○	○	○		
ケシ	コアカザ				○	○	○	○		
ヒユ	ヒカゲイノコズチ				○	○	○	○		
	ヒナタイノコズチ				○	○	○	○		
クスノキ	シロダモ				○	○	○	○		
キンポウゲ	センニンソウ				○	○	○	○		
	ケクツネノボタン				○	○	○	○		
アケビ	アケビ				○	○	○	○		
	ミツバアケビ				○	○	○	○		
ツツラフジ	アオツツラフジ				○	○	○	○		
ドクダミ	ドクダミ				○	○	○	○		
	ハンダショウ			県VU, 旧県NT	○	○	○	○		
ケシ	ムラサキケマン				○	○	○	○		

分類群	科名	種名	目標種	重要種	外来種	H26		H29	
						春季	秋季	春季	夏季
アブラナ	ナズナ	タネツケバナ				○	○	○	○
		コイヌガラシ		環NT, 県NT, 旧県NT		○	○	○	○
		イヌガラシ				○	○	○	○
		スカシタゴボウ				○	○	○	○
		ヘビイチゴ				○	○	○	○
	バラ	ヤブヘビイチゴ				○	○	○	○
		コバナキジムシロ				○	○	○	○
		カマツカ				○	○	○	○
		ヤマザクラ				○	○	○	○
		Prunus属				○	○	○	○
マメ	ノイバラ				○	○	○	○	
	クサネム				○	○	○	○	
	ヤブマメ				○	○	○	○	
	フジカンゾウ				○	○	○	○	
	アレチヌスビトハギ			総合(その他)	○	○	○	○	
	ヌスビトハギ				○	○	○	○	
	ツルマメ				○	○	○	○	
	クズ				○	○	○	○	
	ムラサキツメクサ				○	○	○	○	
	シロツメクサ				○	○	○	○	
フクロソウ	ヤハズエンドウ				○	○	○	○	
	アメリカフクロ				○	○	○	○	
トウダイグサ	ゲンノショウコ				○	○	○	○	
	ノウルシ	○		環NT, 県VU, 旧県VU	○	○	○	○	
モチノキ	アカメガシワ				○	○	○	○	
	イヌツゲ				○	○	○	○	
ニシキギ	イワウメツル				○	○	○	○	
	ツルウメモドキ				○	○	○	○	
	ニシキギ				○	○	○	○	
	コマユミ				○	○	○	○	
	マサキ				○	○	○	○	
クロウメモドキ	マユミ				○	○	○	○	
	クマヤナギ				○	○	○	○	
ブドウ	ノブドウ				○	○	○	○	
	ヤブガラシ				○	○	○	○	
	ツタ				○	○	○	○	
アオイ	イチビ				○	○	○	○	
スマレ	ツボスミレ				○	○	○	○	
ウリ	アマチャヅル				○	○	○	○	
	スズメウリ				○	○	○	○	
	アレチウリ			特定・総合(緊急)	○	○	○	○	
アカバナ	カラスウリ				○	○	○	○	
	メマツヨイグサ				○	○	○	○	

【重要種凡例】 国：2017、県：2011
 絶滅(EX)、野生絶滅(EW)、絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)、絶滅危惧ⅠA類(CR)、絶滅危惧ⅠB類(EN)、絶滅危惧Ⅱ類(VU)、準絶滅危惧(NT, NT1, NT2)、情報不足(DD)、絶滅のおそれがある地域個体群(LP)、地帯別危惧(RT)

【外来種凡例】
 外来生物法:2004 特定外来種(特定)
 我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト:2015
 「定着を予防する外来種」侵入予防外来種(定着(侵入))、(定着予防外来種) その他の定着予防外来種(定着(その他))、「総合的に対策が必要な外来種(総合対策外来種)」緊急対策外来種(総合(緊急))、重点対策外来種(総合(重点))、その他の総合対策外来種(総合(その他))、「適切な管理が必要な産業上重要な外来種(産業管理外来種)」(産業)
 外来種ハンドブック:2002 指定種(○)、その他植栽・逸出種:(○)

※「特定の場所」を調査対象地点としているため、確認種リストにはこれまで地区内各所で確認された種が含まれない場合があります。

3. 太郎右衛門地区全体の調査

3) 植物相【春季・夏季】 2/2

植物相	分類群	科名	種名	目標種	重要種	外来種	H26		H29		
							春季	秋季	春季	夏季	
合弁花類	ミズキ	アオキ					○	○	○	○	
		ミズキ					○	○	○	○	
	ウコギ	オカウコギ						○	○	○	○
		キツタ					○	○	○	○	○
	セリ	エキサイゼリ	○	環NT、県CR、旧県CR			○	○	○	○	○
		セリ					○	○	○	○	○
		ヤブニンジン						○	○	○	○
		ヤブジラミ					○	○	○	○	○
		オヤブジラミ						○	○	○	○
	モクセイ	ネズミモチ			○			○	○	○	○
		イボタノキ					○	○	○	○	○
	ガガイモ	ガガイモ					○	○	○	○	
	アカネ	ヤエムグラ					○	○	○	○	○
		ヘクソカズラ					○	○	○	○	○
	ヒルガオ	コヒルガオ					○	○	○	○	○
		アメリカネナシカズラ			総合(その他)			○	○	○	○
	ムラサキ	ハナイバナ					○	○	○	○	○
		キュウリグサ						○	○	○	○
	クマツヅラ	クサギ						○	○	○	○
		カキドオシ						○	○	○	○
		ヒメオドリコソウ			○			○	○	○	○
		シロネ							○	○	○
		ヒメジソ						○	○	○	○
	ナス	ミゾコウジュ	○	環NT・県NT							
		ヒヨドリジョウゴ								○	○
ゴマノハグサ	アメリカアゼナ			○							
	ムシクサ					○	○	○	○	○	
	オオイヌノフグリ			○					○	○	
スイカズラ	スイカズラ						○	○	○	○	
	ゴマギ			県NT、旧県NT			○	○	○	○	
キク	ブタクサ			○					○	○	
	オオブタクサ			総合(重点)		○	○	○	○	○	
	カワラニンジン			旧県EN		○	○	○	○	○	
	アメリカセンダングサ			総合(その他)			○	○	○	○	
	トキンソウ								○	○	
	アメリカタカサブロウ			○					○	○	
	ヒメムカシヨモギ			○					○	○	
	ハルジオン			○					○	○	
	ハハコグサ								○	○	
	キツネアザミ								○	○	
	アキノノゲシ								○	○	
	セイタカアワダチソウ			総合(重点)		○	○	○	○	○	
単子葉植物	ユリ	ヤブラン					○	○	○	○	
		ジャノヒゲ				○	○	○	○	○	
	ヤマノイモ	オオバジャノヒゲ						○	○	○	○
		シオデ						○	○	○	○
	ツユクサ	ナガイモ			○					○	○
		ニガカシュウ						○	○	○	○
	ツユクサ	ヤマノイモ						○	○	○	○
		ツユクサ						○	○	○	○

分類群	科名	種名	目標種	重要種	外来種	H26		H29				
						春季	秋季	春季	夏季			
イネ		カモジグサ						○	○			
		スズメノテッポウ						○	○			
		コブナグサ					○					
		ミノゴメ							○	○		
		キツネガヤ					○					
		メヒシバ								○	○	
		イヌビエ					○			○	○	
		ケイヌビエ								○	○	
		トボシガラ								○	○	
		ネズミムギ			産業					○	○	
		オギ					○	○	○	○	○	
		ケチヂミザサ						○	○	○	○	
		ヌカキビ						○	○	○	○	
		チカラシバ						○	○	○	○	
		クサヨシ						○	○	○	○	
		ヨシ						○	○	○	○	
		マダケ			産業					○	○	
		ミゾイチゴツナギ					○			○	○	
		アキノエノコログサ						○			○	
		カニツリグサ								○	○	
		マコモ								○	○	
		ヤシ	シュロ			総合(その他)		○	○	○	○	
		ガンマ	ヒメガマ					○	○	○	○	
		カヤツリグサ		ウキヤガラ					○	○	○	○
				エナシヒゴクサ					○	○	○	○
アゼナルコ							○			○	○	
カサスゲ							○			○	○	
ウマスゲ					県NT、旧県NT		○	○	○	○	○	
ヤガミスゲ					旧県NT		○			○	○	
ミコシガヤ										○	○	
ヤブスゲ										○	○	
ヤワラスゲ							○			○	○	
Carex属								○				
ミズガヤツリ								○	○			
フトイ							○	○	○	○	○	
マツカサススキ			県NT					○	○			
-	56科	193種	3種	11種	34種	73種	107種	129種	124種			

※カワラニンジンとヤガミスゲは埼玉県の旧レッドデータブックに記載されている種です。

【重要種凡例】 国：2017、県：2011
 絶滅(EX)、野生絶滅(EW)、絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)、絶滅危惧ⅠA類(CR)、絶滅危惧ⅠB類(EN)、絶滅危惧Ⅱ類(VU)、準絶滅危惧(NT、NT1、NT2)、情報不足(DD)、絶滅のおそれがある地域個体群(LP)、地帯別危惧(RT)

【外来種凡例】
 外来生物法：2004 特定外来種(特定)
 我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト：2015
 「定着を予防する外来種」侵入予防外来種(定着(侵入))、(定着予防外来種) その他の定着予防外来種(定着(その他))、「総合的に対策が必要な外来種(総合対策外来種)」緊急対策外来種(総合(緊急))、重点対策外来種(総合(重点))、その他の総合対策外来種(総合(その他))、「適切な管理が必要な産業上重要な外来種(産業管理外来種)」(産業)
 外来種ハンドブック：2002 指定種(○)、その他植栽・逸出種：(○)

※ 種名は「河川水辺の国勢調査のための生物リスト 平成29年度生物リスト(河川環境データベース 国土交通省 2017年)」に準拠した。

※「特定の場所」を調査対象地点としているため、確認種リストにはこれまで地区内各所で確認された種が含まれない場合があります。

4) 魚類【夏季】

非表示

非表示

4) 魚類【夏季】

非表示

5) 底生動物【夏季】

非表示

非表示

5) 底生動物【夏季】

非表示

6) アライグマ調査結果

①概要

非表示

非表示

非表示

非表示

6) アライグマ調査結果

③中池の詳細

非表示

非表示

非表示

非表示

6) アライグマ調査結果

⑤まとめ

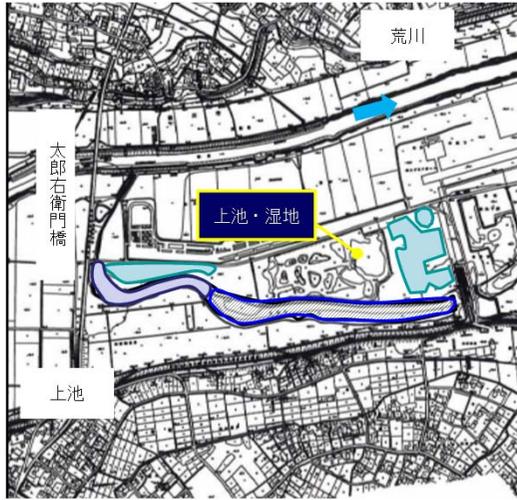
非表示

非表示

3. 太郎右衛門地区全体の調査

7) 「特定の場所」の調査：上池・湿地 写真撮影

●各地点のうち、代表的な撮影方向のみ示しました。



調査実施状況と報告状況	
写真撮影	4月(報告済み)、8月、10月

航空写真は国土地理院(H25.2)
※「特定の場所」はH25年7月から撮影開始

H26.4.24

3年後

H29.4.27

H29.8.25

H29.10.27



水面形成の有無の変化はあるが、ヤナギ類が湿地沿いに分布する状況に大きな変化は無い。

7) 「特定の場所」の調査：中池・湿地 写真撮影

●各地点のうち、代表的な撮影方向のみ示した。



航空写真は国土地理院(H25.2)

H26.4.24

3年後

H29.4.27

H29.8.25

H29.10.27



水面形成の有無の変化はあるが、抽水植物が湿地に分布する状況に大きな変化は無い。

3. 太郎右衛門地区全体の調査

7) 「特定の場所」の調査：中池・河畔林 写真撮影

●各地点のうち、代表的な撮影方向のみ示した。



航空写真は国土地理院(H25.2)

H26.4.24

3年後

H29.4.27

H29.8.25

H29.10.27



河畔林の分布状況に大きな変化は無い。

3. 太郎右衛門地区全体の調査

7) 「特定の場所」の調査：下池・樹林 写真撮影

●各地点のうち、代表的な撮影方向のみ示した。



航空写真は国土地理院(H25.2)

H26.4.24

3年後

H29.4.27

H29.8.25

H29.10.27



樹林の分布状況に大きな変化は無い。

3. 太郎右衛門地区全体の調査

7) 「特定の場所」の調査：下池・ハンノキ林 写真撮影

●各地点のうち、代表的な撮影方向のみ示した。



航空写真は国土地理院(H25.2)

H26.4.24

3年後

H29.4.27

H29.8.25

H29.10.27

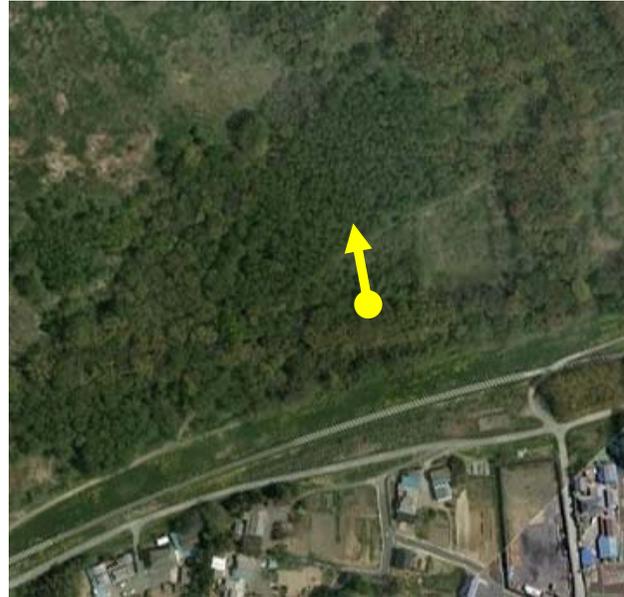


ハンノキおよび林床の湿生草本類の分布状況に大きな変化は無い。

3. 太郎右衛門地区全体の調査

7) 「特定の場所」の調査：下池・河畔林 写真撮影

●各地点のうち、代表的な撮影方向のみ示した。



航空写真は国土地理院(H25.2)

H26.4.24

3年後

H29.4.27

H29.8.25

H29.10.27



河畔林の分布状況に大きな変化は無い。

3. 太郎右衛門地区全体の調査

7) 「特定の場所」の調査：下池・湿地 写真撮影

●各地点のうち、代表的な撮影方向のみ示した。



航空写真は国土地理院(H25.2)

H26.4.24

3年後

H29.4.27

H29.8.25

H29.10.27



元の水田跡地の湿性環境から乾性の草地への遷移が継続している。

3. 太郎右衛門地区全体の調査

7) 「特定の場所」の調査：下池・注目種生育地 写真撮影

●各地点のうち、代表的な撮影方向のみ示した。



航空写真は国土地理院 (H25.2)

H26.4.24

3年後

H29.4.27

H29.8.25

H29.10.27



フジカンゾウの周辺はタケの侵入が進んでいる。

3. 太郎右衛門地区全体の調査

7) 「特定の場所」の調査：下池・シダ類生育地 写真撮影

●各地点のうち、代表的な撮影方向のみ示した。



航空写真は国土地理院(H25.2)



H26.4.24

3年後

H29.4.27

H29.8.25

H29.10.27



シダ類の分布状況に大きな変化は無い。

4. 自然再生事業の実施計画に関する調査

参考(過年度分)

1) 上池・旧流路保全地区：植物 重要種・外来種【春季】

前回報告

非表示

調査実施状況と報告状況

植物相	春、夏(報告済み)
-----	-----------

非表示

4. 自然再生事業の実施計画に関する調査

参考(過年度分)

1) 上池・旧流路保全地区：植物 重要種・外来種【春季】

前回報告

非表示

4. 自然再生事業の実施計画に関わる調査

参考(過年度分)

1) 上池・旧流路保全地区：植物 重要種・外来種【春季】

前回報告

非表示

1) 上池・旧流路保全地区：植物 重要種・外来種【春季】

非表示

非表示

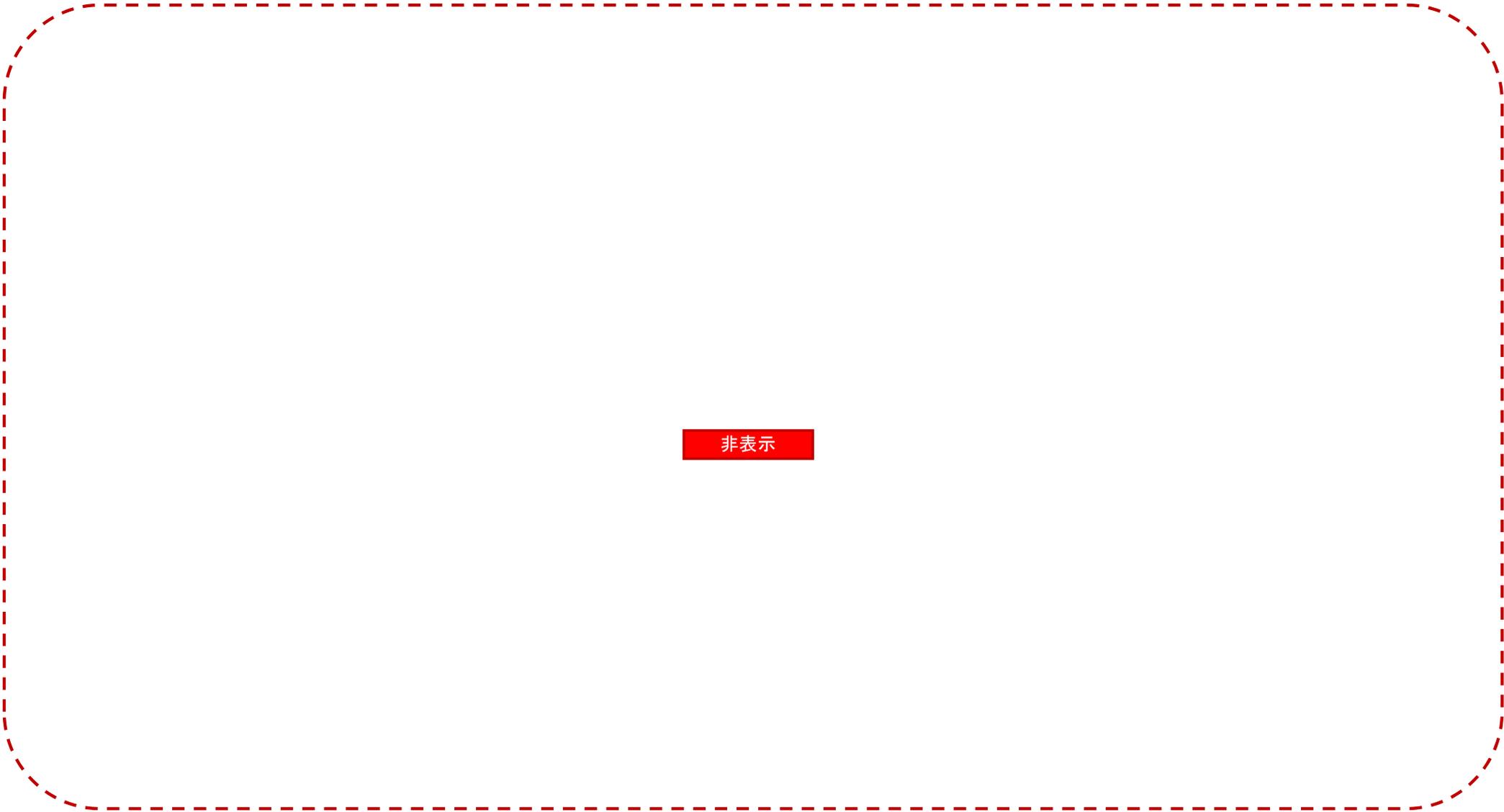
4. 自然再生事業の実施計画に関わる調査

参考(過年度分)

今回報告

1) 上池・旧流路保全地区：植物 重要種・外来種【夏季】

非表示



非表示

4. 自然再生事業の実施計画に関する調査

参考(過年度分)

今回報告

1) 上池・旧流路保全地区：植物 重要種・外来種【夏季】

非表示

1) 上池・旧流路保全地区：植物 重要種・外来種【夏季】

非表示

非表示

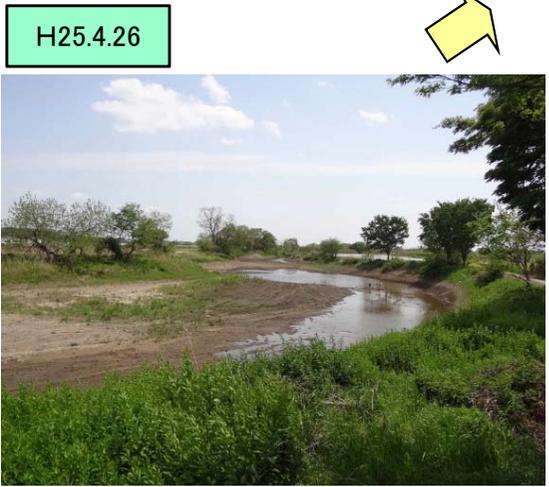
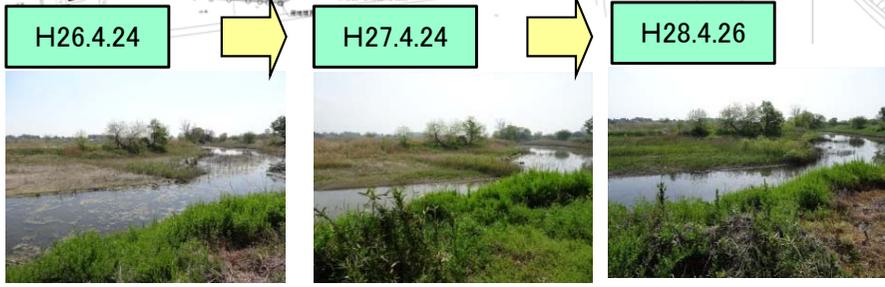
1) 上池・旧流路保全地区：植物 植物相【春・夏季】

非表示

2) 上池・旧流路整備地：写真撮影

●各地点のうち、代表的な撮影方向のみ示した。

調査実施状況と報告状況	
写真撮影	4月(報告済み)、8月、10月
植生図	夏～秋
植物相	春(報告済み)、夏
鳥類	初夏(報告済み)
両生類	早春



水面は一旦縮小したが、流入した河川水により再び拡大した。

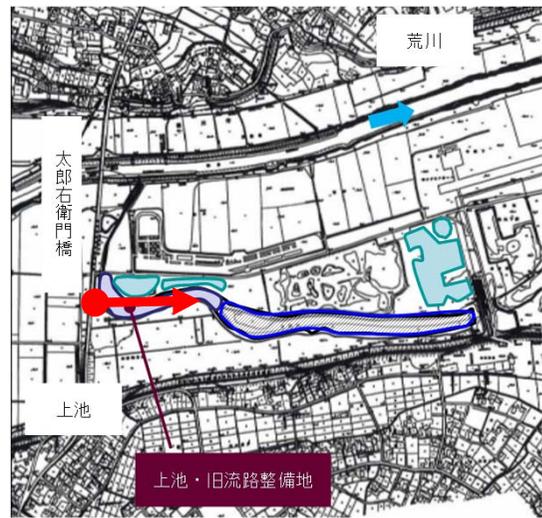
4. 自然再生事業の実施計画に関わる調査

参考

今回報告

2) 上池・旧流路整備地：写真撮影

参考：太郎右衛門橋から撮影



Timeline of photographs showing the river's state over time, with associated typhoon events:

- H26.4.24** (Green box) - Photo of the river with a wide, shallow channel.
- H26.6月前線** (Blue box) and **H26.10月台風第18号** (Blue box) - Yellow arrow pointing to the next photo.
- H27.4.24** (Green box) - Photo showing a narrower channel.
- H27.7月台風第11号** (Blue box) and **H27.9月台風第17号・18号** (Blue box) - Yellow arrow pointing to the next photo.
- H28.4.26** (Green box) - Photo showing a very narrow channel.
- H25.9月台風第18号** (Blue box) and **H25.10月台風第26号** (Blue box) - Yellow arrow pointing to the next photo.
- H25.4.26** (Green box) - Photo showing a wide, shallow channel.
- H28.8月台風第9号・10号** (Blue box) and **H28.9月台風第16号** (Blue box) - Yellow arrow pointing to the next photo.
- H29.10.23台風第21号** (Blue box) - Yellow arrow pointing to the next photo.
- H29.4.27** (Black box) - Photo showing a wide, shallow channel.
- H29.8.25** (Black box) - Photo showing a wide, shallow channel.
- H29.10.27** (Black box) - Photo showing a wide, shallow channel.

水面は一旦縮小したが、流入した河川水により再び拡大した。

4. 自然再生事業の実施計画に関する調査

参考
(過年度分)

前回報告

2) 上池・旧流路整備地：植物 重要種・外来種【春季】

非表示

非表示

4. 自然再生事業の実施計画に関わる調査

参考
(過年度分)

前回報告

2) 上池・旧流路整備地：植物 重要種・外来種【春季】

非表示

4. 自然再生事業の実施計画に関わる調査

参考
(過年度分)

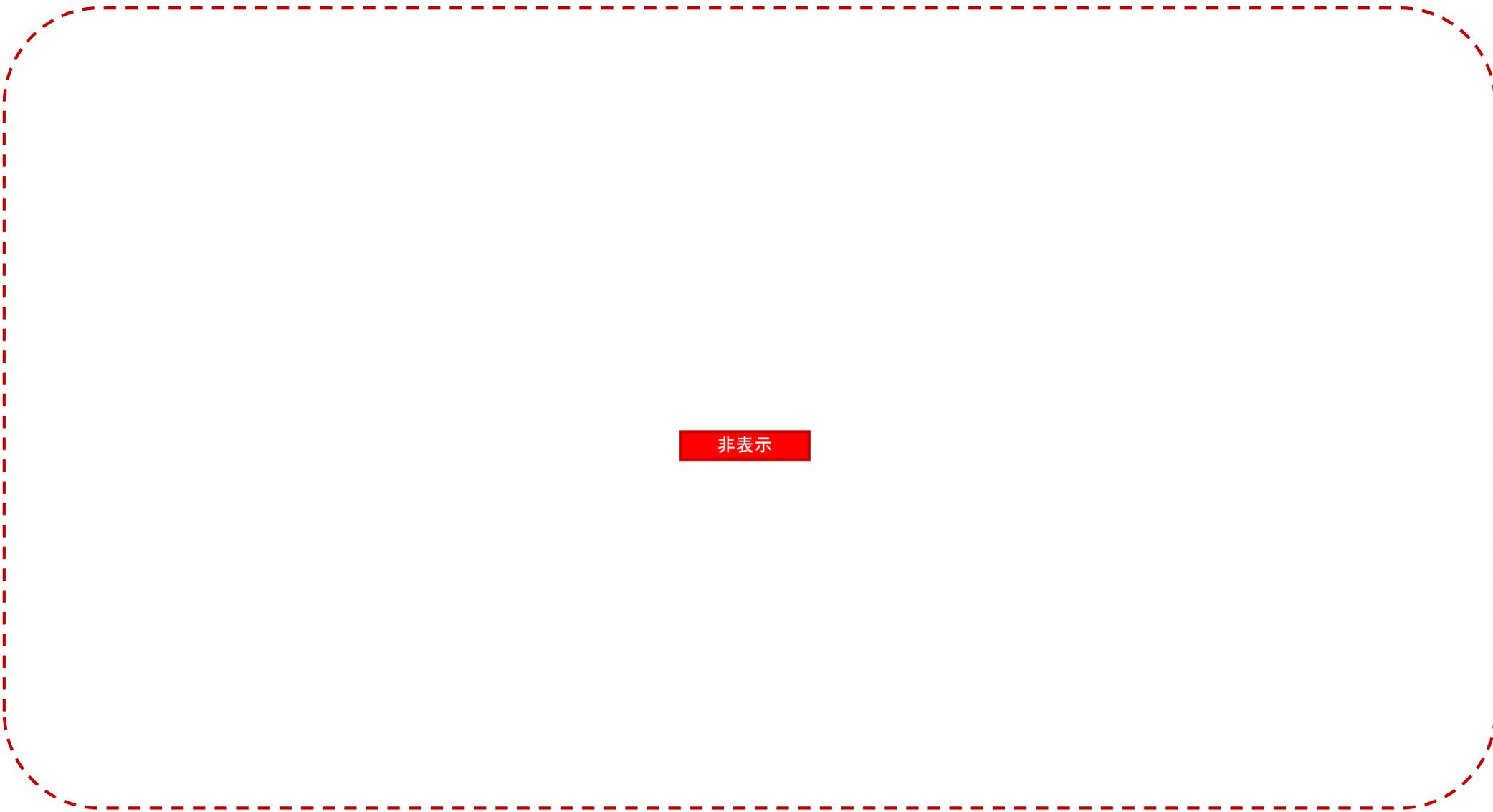
前回報告

2) 上池・旧流路整備地：植物 重要種・外来種【春季】

非表示

2) 上池・旧流路整備地：植物 重要種・外来種【春季】

非表示



非表示

4. 自然再生事業の実施計画に関する調査

参考

(過年度分)

今回報告

2) 上池・旧流路整備地：植物 重要種・外来種【夏季】

非表示

非表示

4. 自然再生事業の実施計画に関わる調査

参考
(過年度分)

今回報告

2) 上池・旧流路整備地：植物 重要種・外来種【夏季】

非表示

4. 自然再生事業の実施計画に関わる調査

参考

(過年度分)

今回報告

2) 上池・旧流路整備地：植物 重要種・外来種【夏季】

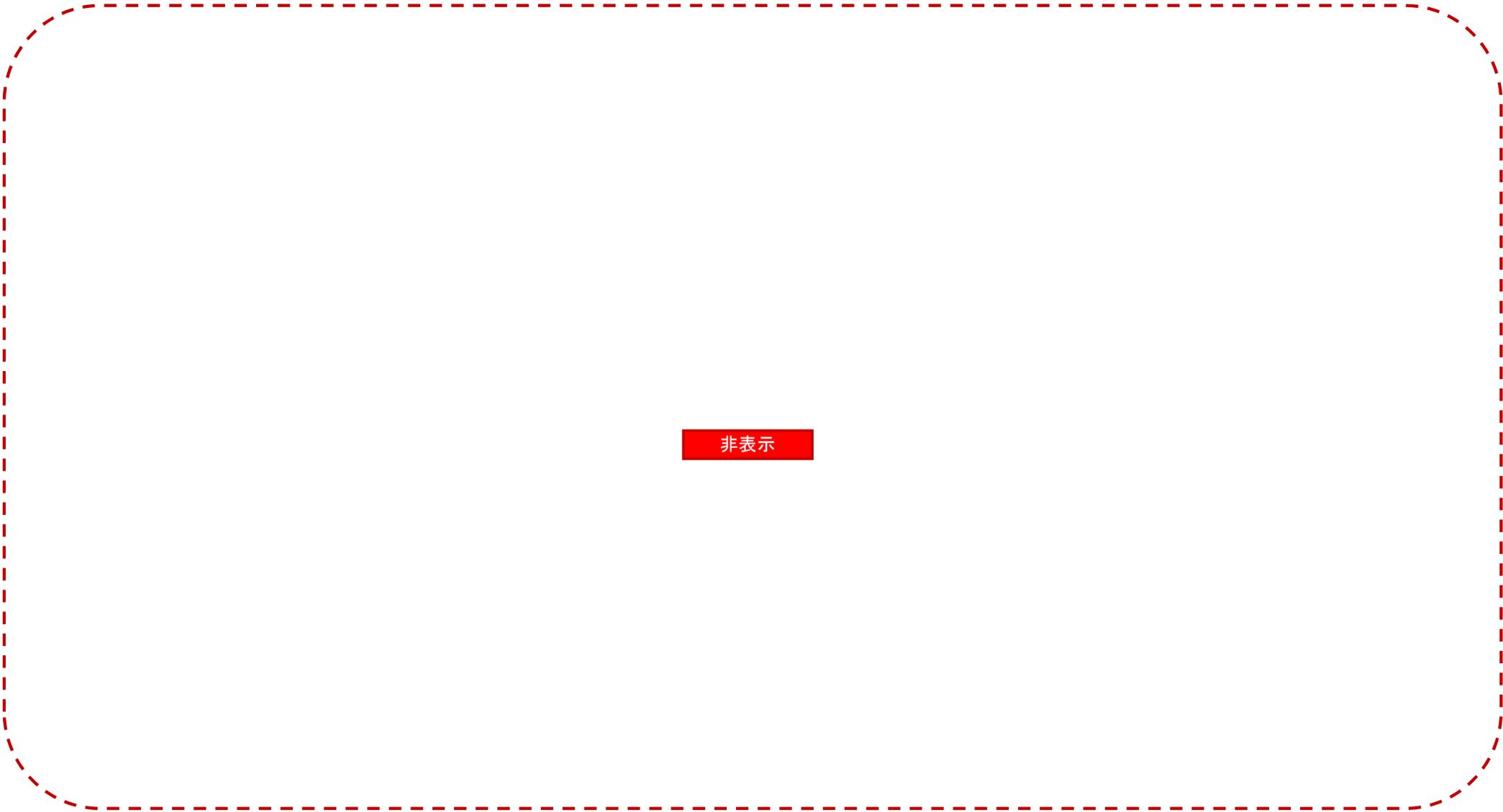
非表示

2) 上池・旧流路整備地：植物 重要種・外来種【夏季】

非表示

非表示

2) 上池・旧流路整備地：植物 確認種【春・夏季】



非表示

4. 自然再生事業の実施計画に関する調査

参考(過年度分)

今回報告

2) 上池・旧流路整備地：植物 植生図【秋季】

非表示

2) 上池・旧流路整備地：植物 植生図【秋季】

非表示

非表示

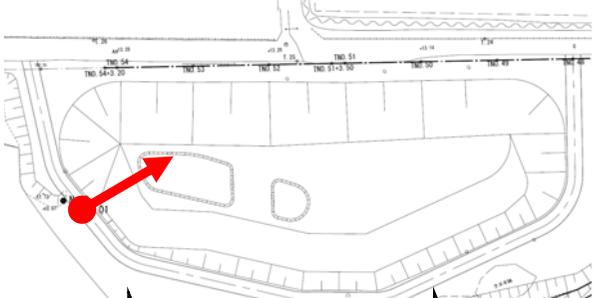
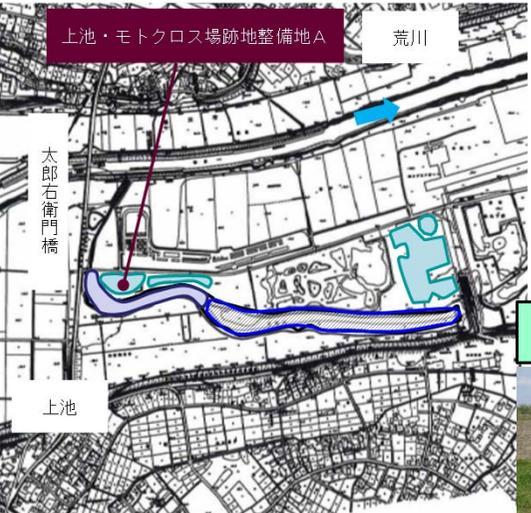
2) 上池・旧流路整備地：鳥類 確認種

非表示

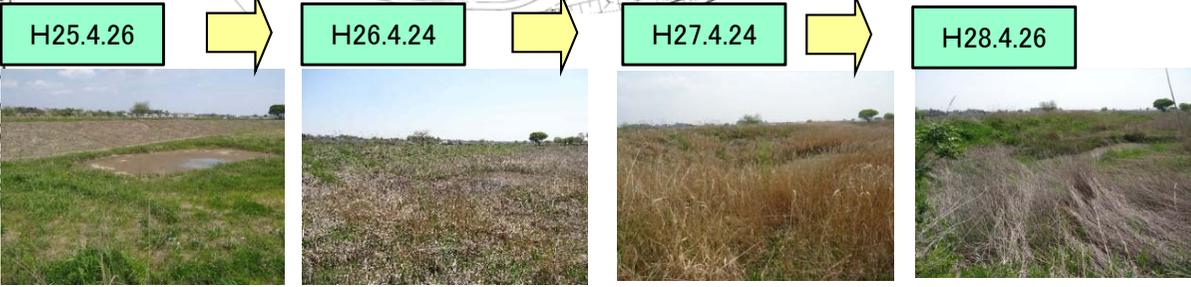
非表示

3) 上池・モトクロス場跡地整備地A H23整備：写真撮影

●各地点のうち、代表的な撮影方向のみ示した。



調査実施状況と報告状況	
写真撮影	4月(報告済み)、8月、10月
植生図	夏～秋
植物相	春(報告済み)、夏
鳥類	初夏(報告済み)
両生類	早春



斜面部はオギ等、底面部はヨシ等が生育し、湿地が維持されている。

4. 自然再生事業の実施計画に関わる調査

参考
(過年度分)

前回報告

3) 上池・モトクロス場跡地整備地A H23整備：植物 重要種・外来種【春季】

非表示

非表示

4. 自然再生事業の実施計画に関わる調査

前回報告

3) 上池・モトクロス場跡地整備地A H23整備：植物 重要種・外来種【春季】

非表示

非表示

4. 自然再生事業の実施計画に関わる調査

参考
(過年度分)

3) 上池・モトクロス場跡地整備地A H23整備：植物 重要種・外来種【夏季】

非表示

今回報告

非表示

3) 上池・モトクロス場跡地整備地A H23整備：植物 重要種・外来種【夏季】

非表示

非表示

4. 自然再生事業の実施計画に関わる調査

参考
(過年度分)

今回報告

3) 上池・モトクロス場跡地整備地A H23整備：植物 植生図【秋季】

非表示

3) 上池・モトクロス場跡地整備地A H23整備：植物 植生図【秋季】

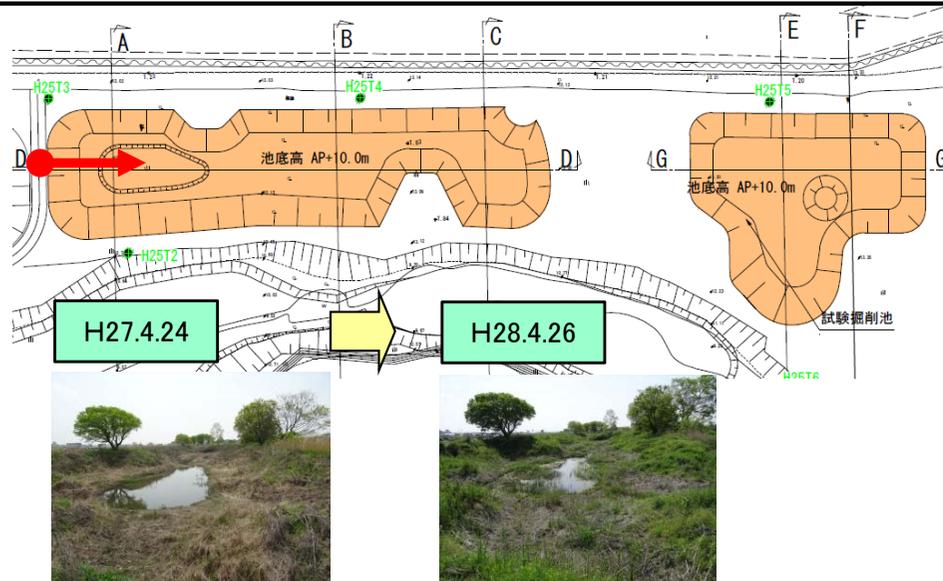
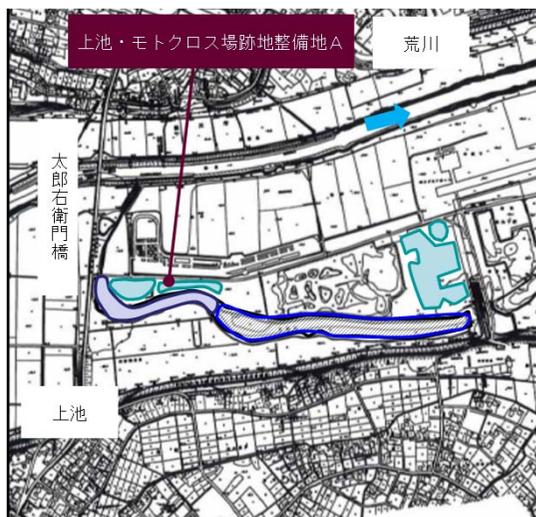
非表示

非表示

4. 自然再生事業の実施計画に関わる調査

3) 上池・モトクロス場跡地整備地A H25整備：写真撮影

●各地点のうち、代表的な撮影方向のみ示した。



調査実施状況と報告状況	
写真撮影	4月(報告済み)、8月、10月
植生図	夏～秋
植物相	春(報告済み)、夏
鳥類	初夏(報告済み)
両生類	早春

H26.4.24



H29.4.27



H29.8.25



H29.10.27



斜面部はオギ等、底面部はサデクサ等が生育している。水面は一旦縮小したが、流入した河川水により再び拡大した。 73

4. 自然再生事業の実施計画に関わる調査

参考
(過年度分)

前回報告

3) 上池・モトクロス場跡地整備地A H25整備：植物 重要種・外来種【春季】

非表示

非表示

3) 上池・モトクロス場跡地整備地A H25整備：植物 重要種・外来種【春季】

非表示

非表示

4. 自然再生事業の実施計画に関わる調査

参考
(過年度分)

3) 上池・モトクロス場跡地整備地A H25整備：植物 重要種・外来種【夏季】

非表示

今回報告

非表示

3) 上池・モトクロス場跡地整備地A H25整備：植物 重要種・外来種【夏季】

非表示

非表示

4. 自然再生事業の実施計画に関わる調査

参考
(過年度分)

今回報告

3) 上池・モトクロス場跡地整備地A H25整備：植物 植生図【秋季】

非表示

4. 自然再生事業の実施計画に関わる調査

今回報告

3) 上池・モトクロス場跡地整備地A H25整備：植物 重要種・外来種【夏季】

非表示

非表示

3) 上池・モトクロス場跡地整備地A H23・25整備：植物 確認種【春・夏季】

非表示

4. 自然再生事業の実施計画に関わる調査

前回報告

3) 上池・モトクロス場跡地整備地A H23・H25整備：鳥類 確認種

非表示

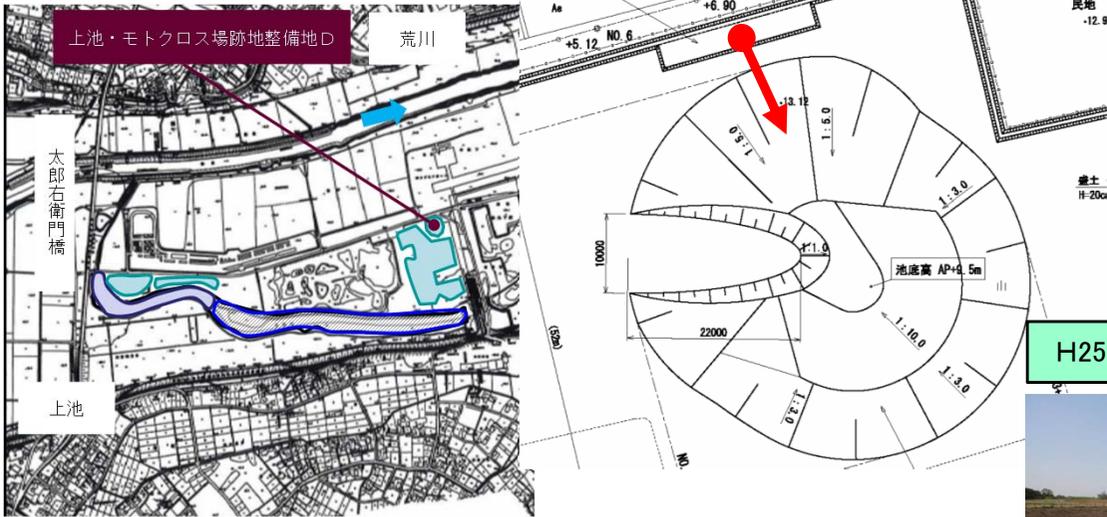
非表示

4. 自然再生事業の実施計画に関わる調査

今回報告

4) 上池・モトクロス場跡地整備地D H23整備：写真撮影

●各地点のうち、代表的な撮影方向のみ示した。



調査実施状況と報告状況	
写真撮影	4月(報告済み)、8月、10月
植生図	夏～秋
植物相	春(報告済み)、夏
鳥類	初夏(報告済み)
両生類	早春

H24.4.24



H25.4.26



H26.4.24



H27.4.24



H28.4.26



H29.4.27



H29.8.25



H29.10.27



斜面部はオギ等、底面部はツルマメ等が生育している。水面は一旦縮小したが、流入した河川水により再び拡大した。

4. 自然再生事業の実施計画に関わる調査

参考
(過年度分)

前回報告

4) 上池・モトクロス場跡地整備地D H23整備：植物 重要種・外来種【春季】

非表示

非表示

4. 自然再生事業の実施計画に関わる調査

前回報告

4) 上池・モトクロス場跡地整備地D H23整備：植物 重要種・外来種【春季】

非表示

非表示

4. 自然再生事業の実施計画に関わる調査

参考
(過年度分)

4) 上池・モトクロス場跡地整備地D H23整備：植物 重要種・外来種【夏季】

今回報告

非表示

非表示

4) 上池・モトクロス場跡地整備地D H23整備：植物 重要種・外来種【夏季】

非表示

非表示

4. 自然再生事業の実施計画に関わる調査

参考
(過年度分)

今回報告

4) 上池・モトクロス場跡地整備地D H23整備：植物 植生図【秋季】

非表示

4) 上池・モトクロス場跡地整備地D H23整備：植物 植生図【秋季】

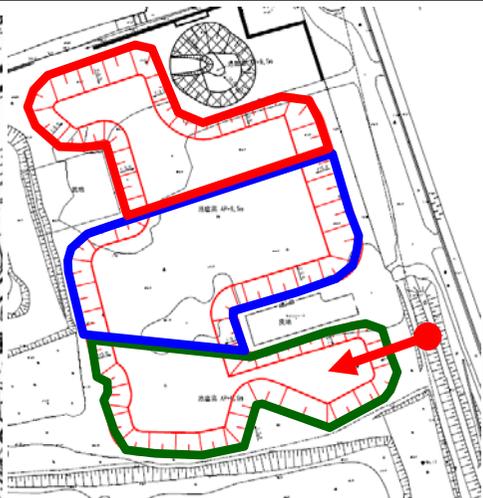
非表示

非表示

4. 自然再生事業の実施計画に関わる調査

4) 上池・モトクロス場跡地整備地D H25-27整備：写真撮影

●各地点のうち、代表的な撮影方向のみ示した。



- ▭ H27整備
- ▭ H26整備
- ▭ H25整備

調査実施状況と報告状況	
写真撮影	4月(報告済み)、8月、10月
植生図	夏～秋
植物相	春(報告済み)、夏
鳥類	初夏(報告済み)
両生類	早春

H27.4.24



H28.4.26



H26.4.24



H29.4.27



H29.8.25



H29.10.27



斜面部はオギ等、底面部はアキノエノコログサ等が生育している。水面は一旦縮小したが、流入した河川水により再び拡大した。 89

4. 自然再生事業の実施計画に関する調査

参考
(過年度分)

前回報告

4) 上池・モトクロス場跡地整備地D H25-27整備：植物 重要種・外来種【春季】

非表示

非表示

4. 自然再生事業の実施計画に関わる調査

前回報告

4) 上池・モトクロス場跡地整備地D H25-27整備：植物 重要種・外来種【春季】

非表示

非表示

4. 自然再生事業の実施計画に関わる調査

参考
(過年度分)

4) 上池・モトクロス場跡地整備地D H25-27整備：植物 重要種・外来種【夏季】

今回報告

非表示

非表示

4. 自然再生事業の実施計画に関わる調査

今回報告

4) 上池・モトクロス場跡地整備地D H25-27整備：植物 重要種・外来種【夏季】

非表示

非表示

4. 自然再生事業の実施計画に関わる調査

参考
(過年度分)

今回報告

4) 上池・モトクロス場跡地整備地D H25-27整備：植物 植生図【秋季】

非表示

4. 自然再生事業の実施計画に関わる調査

今回報告

4) 上池・モトクロス場跡地整備地D H25-27整備：植物 植生図【秋季】

非表示

非表示

4) 上池・モトクロス場跡地整備地D H23・25-27整備：植物 確認種【春・夏季】

非表示

4. 自然再生事業の実施計画に関わる調査

前回報告

4) 上池・モトクロス場跡地整備地D H23・H25-27整備：鳥類 確認種

非表示

非表示

4) 上池旧流路整備地・モトクロス場跡地整備地（両生類）

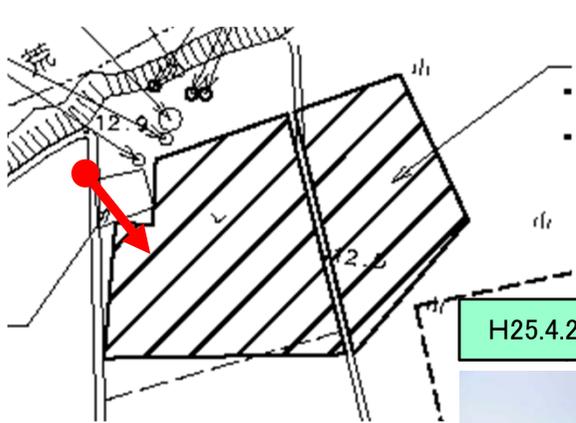
非表示

非表示

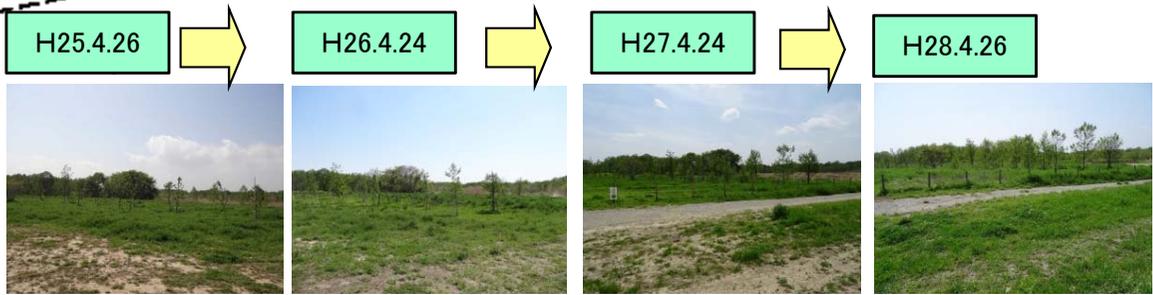
4. 自然再生事業の実施計画に関わる調査

5) 下池・ハンノキ移植地 H23整備：写真撮影

●各地点のうち、代表的な撮影方向のみ示した。



調査実施状況と報告状況	
写真撮影	4月(報告済み)、8月、10月
ミドリシジミ	初夏(報告済み)



H29.4.27



H29.8.25



H29.10.27



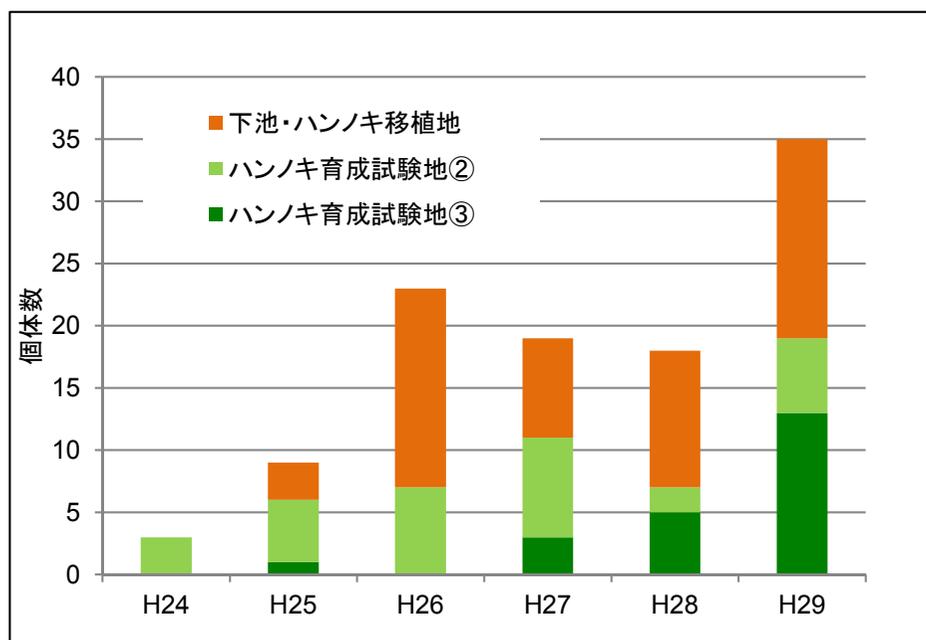
大きくなったハンノキは順調に生育している。小さなハンノキは周辺のつる性の草本が成長している。

5) 下池・ハンノキ移植地 H23整備、ハンノキ育成試験地：ミドリシジミ

- ミドリシジミは、下池・ハンノキ移植地16個体、ハンノキ育成試験地②6個体、ハンノキ育成試験地③13個体の合計35個体確認されました。
- ミドリシジミの確認個体数は、調査年によってバラツキはありますが安定して生息しています。
- 参考として確認をしたが、下池整備地(H28年度掘削範囲にハンノキの幼木を41本をH29.2に移植)ではミドリシジミは確認されなかった。現状、ミドリシジミが利用するまでにはハンノキは成長していないと思われる。(P97、P100写真参照)

【ミドリシジミ確認状況】

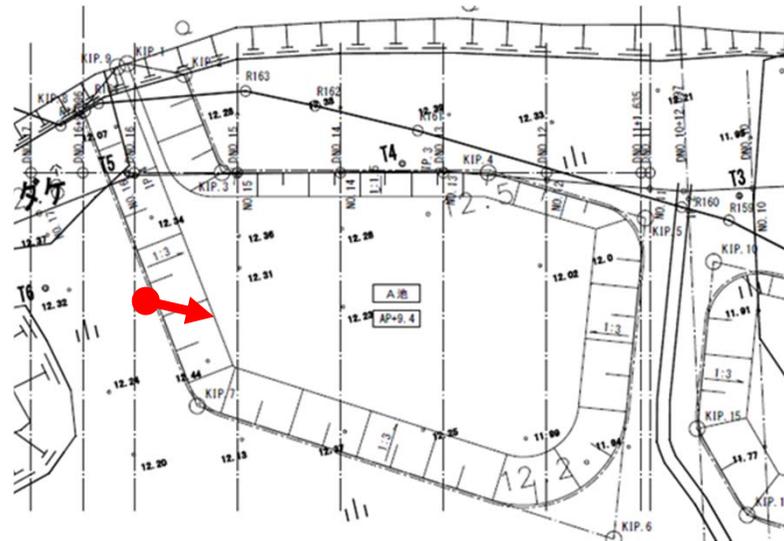
調査箇所	H24	H25	H26	H27	H28	H29
下池・ハンノキ移植地	0	3	16	8	11	16
ハンノキ育成試験地②	3	5	7	8	2	6
ハンノキ育成試験地③	0	1	0	3	5	13



参考 6月25日ミドリシジミ観察の状況

6) 下池・整備地 H28整備：写真撮影

●各地点のうち、代表的な撮影方向のみ示した。



調査実施状況と報告状況	
写真撮影	4月(報告済み)、8月、10月



H29.4.27

H29.8.25

H29.10.27



底面部は水面が確認され、湿地が維持されている。斜面部は裸地でオオブタクサの生育が確認された。移植したハンノキの生育が確認された。

○植物調査時に確認された生物

非表示

非表示

○ 10/23の出水後の現地状況比較 ①乾燥化の現地視察地点

- 7月13日に乾燥化の状況把握のため、生態系モニタリング専門委員会・現地視察会を実施しました。各整備地で水面の縮小、消失は見られるものの、掘削底面は湿性状態が維持され、ヨシやヒシ群落の生育が確認されました。
- 10月23日に台風第21号が接近し、出水により各整備地に流入が見られました。各整備地では、消失していた水面が再び現れ、出水による攪乱(植物群落の沈水や倒伏など)が確認されました。

上池旧流路整備地

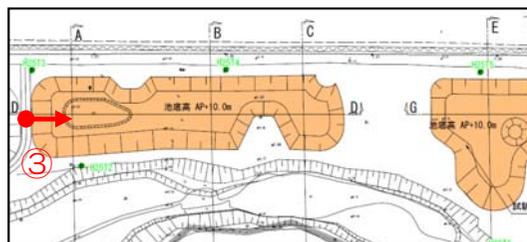
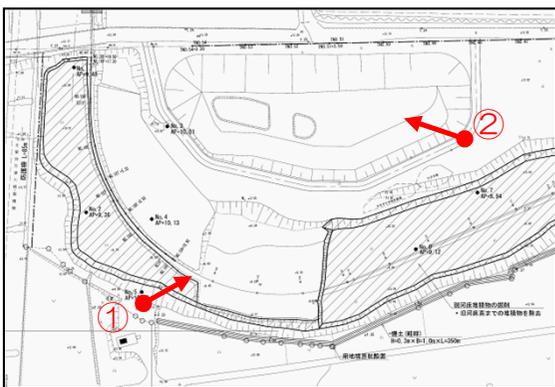
H29.7.13 (乾燥化確認時)

H29.10.23 (台風第21号通過後)

①延命地藏付近



【撮影位置と方向】



モトクロス場跡地整備地A

H29.7.13 (乾燥化確認時)

H29.10.23 (台風第21号通過後)

②上流側
(H23整備)



③下流側
(H25整備)



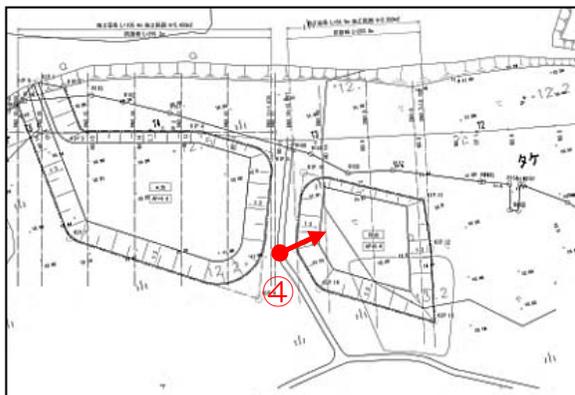
○10/23の出水後の現地状況比較 ①乾燥化の現地視察地点

- 7月13日の視察時は、下池整備地の水面は消失していました。しかし、整備地底面は湿地環境が維持され、移植したハンノキは順調に生育していることが確認されました。
- 10月23日の出水後は、水面が形成され、移植したハンノキの流亡や倒伏等は確認されませんでした。

下池整備地

H29.7.13 (乾燥化確認時)

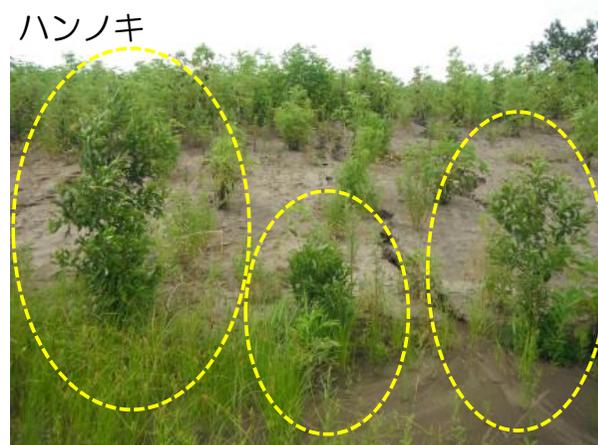
【撮影位置と方向】



④下池整備地



ハンノキ



H29.10.23 (台風第21号通過後)



※7/13に撮影したハンノキは同一個体ではない。

○10/23の出水後の現地状況比較 ②下池工事箇所外来種確認地点

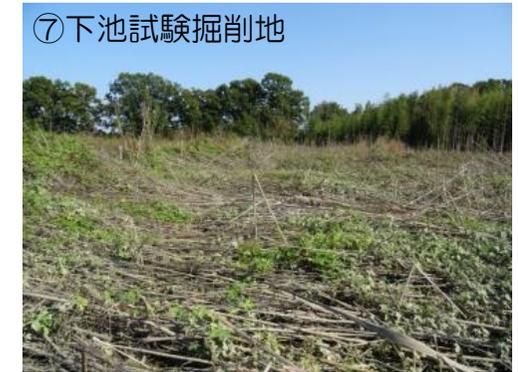
- 7月13日の視察時は、工事用通路や整備地周辺はオオブタクサが優占していました。湿地状態の整備地底面では優占していませんが、特に工事用通路の周囲は高い密度で優占し、大きい個体は3m90cm程度の高さまで成長していました。
- 10月23日は、出水時の流路上にあったオオブタクサは大部分が倒伏していました。

下池整備地

H29.7.13（乾燥化確認時）



H29.10.23（台風第21号通過後）



【撮影位置と方向】



※10/23の写真において、左写真以外は7/13の撮影地点と異なる場所で撮影。

○ハチクの状態確認

- 7月13日の現地視察会と並行して、上池旧流路保全地区のハチクの状態を確認しました。
- 開花は見られず、樹勢が衰えている箇所も見られませんでした。



上池・旧流路保全地区

5.その他の報告

○太郎右衛門地区での委員・事務局による情報提供【春季】

- 事務局より、予定調査時以外の4月、5月に太郎右衛門地区で鳥類に関する確認がありましたのでご紹介します。
- オオタカ、チョウゲンボウ、カワセミの3種の目標種を含め、23種の鳥類が確認されています。

No.	分類名	目名	科名	種名	目標種	種の保存	環境省RDL 2017	埼玉県RDB 2011		
1	鳥類	カイツブリ	カイツブリ	カイツブリ						
2		コウノトリ	サギ	ダイサギ						
3				コサギ						
4		タカ	タカ	オオタカ	○	国内	NT	VU(越冬・繁殖)		
5				ノスリ				NT2(越冬・繁殖)		
6			ハヤブサ	チョウゲンボウ	○			NT2(繁殖)		
7		チドリ	チドリ	コチドリ						
8				シギ	タシギ					
9		ブッポウソウ	カワセミ	カワセミ	○			LP(繁殖)		
10		スズメ	ヒバリ	ヒバリ						
11				セキレイ	ビンズイ					
12				モズ	モズ					
13				ツグミ	ツグミ					
14				ウグイス	ウグイス	オオヨシキリ				
15						エゾムシクイ				
16					セッカ					
17				ヒタキ	キビタキ					RT(繁殖)
18					オオルリ					RT(繁殖)
19				エナガ	エナガ					RT(繁殖)
20				ホオジロ	ホオジロ					RT(繁殖)
21				アトリ	シメ					
22				ムクドリ	コムクドリ					DD(繁殖)
23		カラス	カケス							

非表示



ノスリ

非表示



チョウゲンボウ

非表示



キビタキ

非表示



オオルリ

非表示

(※) このような生物の確認情報について、委員の皆様や周囲の方々が
お持ちのものについて、随時のご提供をお願いします。

5.その他の報告

○太郎右衛門地区での委員・事務局による情報提供【夏季～秋季】

- 事務局より、予定調査時以外の夏季～秋季に太郎右衛門地区で鳥類に関する確認がありましたのでご紹介します。
- オオタカ、チョウゲンボウ、タゲリ、カワセミの4種の目標種を含め、28科55種の鳥類が確認されています。
- ツバメチドリ、アオアシシギの2種が初めて確認されています。

No.	科名	種名	目標種	種の保存	環境省RDL		埼玉県RDB	
					2017	2008	2017	2008
1	カイツブリ科	カイツブリ						
2	ウ科	カワウ						
3	サギ科	ゴイサギ						
4		ダイサギ						
5		アオサギ						DD(繁殖)
6	カモ科	マガモ						
7		カルガモ						
8		コガモ						
9		ヒドリガモ						
10		オナガガモ						
11		ハシビロガモ						
12		ホシハジロ						
13		キンクロハジロ						
14	タカ科	トビ						DD(繁殖)
15		オオタカ	○	国内	NT			VU(越冬・繁殖)
16		ノスリ						NT2(越冬・繁殖)
17		チュウヒ				EN		EN(越冬)
18	ハヤブサ科	チョウゲンボウ	○					NT2(繁殖)
19	キジ科	キジ						
20	クイナ科	オオバン						CR(繁殖)
21	チドリ科	コチドリ						
22		イカルチドリ						NT1(繁殖)
23		タゲリ	○					NT2(越冬)
24	シギ科	ハマシギ				NT		
25		アオアシシギ						
26	ツバメチドリ科	ツバメチドリ				VU		CR(繁殖)
27	ハト科	キジバト						
28	カウ科	ホトギス						
29	カワセミ科	カワセミ	○					LP(繁殖)
30	キツツキ科	アオゲラ						RT(繁殖)
31		コゲラ						
32	ヒバリ科	ヒバリ						
33	ツバメ科	ツバメ						
34	セキレイ科	キセキレイ						
35		ハクセキレイ						
36		タヒバリ						
37	モズ科	モズ						
38	ツグミ科	ジョウビタキ						
39		ツグミ						
40	ウグイス科	ウグイス						RT(繁殖)
41		オオヨシキリ						
42		セッカ						
43	エナガ科	エナガ						RT(繁殖)
44	シジュウカラ科	シジュウカラ						
45	メジロ科	メジロ						
46	ホオジロ科	ホオジロ						RT(繁殖)
47		カシラダカ						
48		アオジ						
49	アトリ科	カワラヒフ						NT1(繁殖)
50		ベニマシコ						
51		シメ						RT(越冬)
52	ムクドリ科	ムクドリ						
53	カラス科	カケス						
54		オナガ						
55		ハシボソガラス						
28科		55種	4	1	4			17

非表示



モズ幼鳥

非表示



オオタカ

非表示



ツバメチドリ

非表示



アオアシシギ

非表示

【重要種凡例】国：2017、県：2008
 絶滅(EX)、野生絶滅(EW)、絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)、絶滅危惧ⅠA類(CR)、
 絶滅危惧ⅠB類(EN)、絶滅危惧Ⅱ類(VU)、準絶滅危惧(NT、NT1、NT2)、情
 報不足(DD)、絶滅のおそれがある地域個体群(LP)、地帯別危惧(RT)

〔繁殖鳥〕 巣・卵・ヒナ等の確認、若しくは、その種の繁殖期間内に
 最低3週間以上同一場所に生息し、さえずり、求愛などの繁殖行動によ
 り、同地域で繁殖していると考えられるもの〔越冬鳥〕
 冬期間(主に11～2月)に、最低3週間以上にわたって、同一場所で生
 息が認められ、同地域で越冬していると考えられるもの

(※) このような生物の確認情報について、委
 員の皆様や周囲の方々がお持ちのものに
 ついて、随時のご提供をお願いします。

※ 種名は「河川水辺の国勢調査のための生物リスト 平成29年度生物リスト(河川環境データベース 国土交通省 2017年)」に準拠した。

4. その他の報告

○太郎右衛門地区での委員・事務局による情報提供【冬季】

- 事務局より、予定調査時以外の冬季に太郎右衛門地区で鳥類に関する確認がありましたのでご紹介します。
- オオタカ タゲリの2種の目標種を含め、19科35種の鳥類が確認されています。
- ヨシガモが整備後では初めて確認されています。

No.	分類名	目名	科名	種名	目標種	種の保存	環境省RDL 2017	埼玉県RDB 2008	外来 生物法	生態系被害 防止外来種	外来種 ハンドブック		
1	鳥類	コウノトリ目	サギ科	ダイサギ									
2				アオサギ			DD(繁殖)						
3		カモ目	カモ科	マガモ									
4				カルガモ									
5				ヨシガモ									
6				ヒドリガモ									
7				オナガガモ									
8		タカ目	タカ科	トビ				DD(繁殖)					
9				オオタカ	○	国内	NT	VU(越冬・繁殖)					
10				ノスリ				NT2(越冬・繁殖)					
11				チュウヒ				EN	EN(越冬)				
12		キジ目	キジ科	キジ									
13		チドリ目	チドリ科	タゲリ	○			NT2(越冬)					
14		ハト目	ハト科	キジバト									
15		キツツキ目	キツツキ科	コゲラ									
16		スズメ目	ヒバリ科	ヒバリ									
17				セキレイ科	キセキレイ								
18			ハクセキレイ										
19			セグロセキレイ										
20			タヒバリ										
21			モズ科	モズ									
22			ツグミ科	ツグミ									
23			チメドリ科	ガビチョウ							特定	総合(重点)	外来種
24			ウグイス科	ウグイス					RT(繁殖)				
25			エナガ科	エナガ					RT(繁殖)				
26			シジュウカラ科	シジュウカラ									
27			メジロ科	メジロ									
28			ホオジロ科	ホオジロ					RT(繁殖)				
29				カシラダカ									
30				アオジ						NT1(繁殖)			
31			アトリ科	カワラヒワ									
32				ベニマシコ					RT(越冬)				
33				シメ									
34		カラス科	カケス										
35			ハシブトガラス										
	8目	19科	35種		2	1	2	11	1	1	1		

非表示

【重要種凡例】
 国：2017、県：2008
 絶滅(EX)、野生絶滅(EW)、絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)、絶滅危惧ⅠA類(CR)、絶滅危惧ⅠB類(EN)、絶滅危惧Ⅱ類(VU)、準絶滅危惧(NT、NT1、NT2)、情報不足(DD)、絶滅のおそれがある地域個体群(LP)、地帯別危惧(RT)

【繁殖鳥】 巣・卵・ヒナ等の確認、若しくは、その種の繁殖期間内に最低3週間以上同一場所に生息し、さえずり、求愛などの繁殖行動により、同地域で繁殖していると考えられるもの〔越冬鳥〕
 冬期間（主に11～2月）に、最低3週間以上にわたって、同一場所で生息が認められ、同地域で越冬していると考えられるもの

※ 種名は「河川水辺の国勢調査のための生物リスト 平成29年度生物リスト(河川環境データベース 国土交通省 2017年)」に準拠した。

（※）このような生物の確認情報について、委員の皆様や周囲の方々がお持ちのものについて、随時のご提供をお願いします。